

第3章 広島の良いな「地域環境の保全」

【目指す姿】

- 公園や下水道、交通環境の整備などにより、誰もが安全で快適なまちづくりが進んでいます。
- 化学物質対策、土壌汚染対策等が実施され、良好な空気・水・土壌が確保でき、安全・安心に暮らせる環境が保たれています。

第1節 良好な大気環境の確保・健全な水循環等の確保

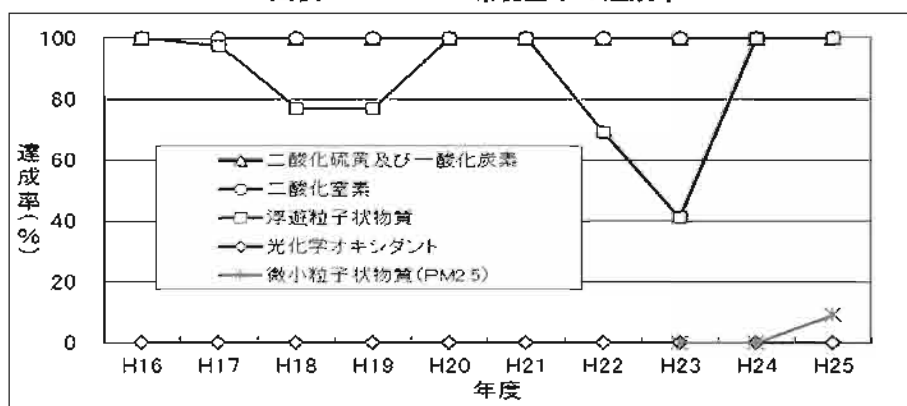
1 良好な大気環境の確保

【現状と課題】

大気汚染は、主に工場・事業場から排出されるばい煙や自動車の排出ガスによって引き起こされます。

高度経済成長期に著しく進行した大気汚染は、工場・事業場などに対する規制措置等により全般的に改善されてきました。その結果、一酸化炭素、二酸化硫黄及び二酸化窒素については、すべての測定局で環境基準を達成しているものの、光化学オキシダント¹はすべての測定局で環境基準を達成していません。また、平成21年度に新たに環境基準が設定された微小粒子状物質（PM2.5）は、平成25年度では11測定局中、1測定局が環境基準を達成している状況です。

図表 3-2-1 環境基準の達成率



資料：県環境保全課

酸性雨は、大気、降水、陸水など環境全体が酸性化する問題です。全国調査の結果では、国外（中国大陸）からの影響も示唆されています。

本県においても、経年的な推移は横ばいではありますが、全国の状況と同様に、年平均値 pH4 台の降雨が観測されています。

1 光化学オキシダント：工場・事業場や自動車から排出される窒素酸化物（NOx）や炭化水素類（HC）を中心とする一次汚染物質から太陽光線による光化学反応により二次的に生成されるオゾン、パーオキシアセチルナイトレートなどの酸化性物質の総称で、いわゆる光化学スモッグの原因となっている。光化学オキシダントは強い酸化力を持ち、高濃度では目やのどへの刺激や呼吸器へ影響を及ぼし、植物などへも影響を与える。

2 環境基準：環境基本法第16条第1項の規定に基づき、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準として、国が定める環境の基準。大気汚染にかかるものは、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン及びダイオキシン類の11物質について定められている。（基準値は、「広島県環境データ集」を参照）

図表 3-1-2 降雨 pH 値

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
広島市	4.7	4.6	4.7	4.6*	4.5	4.7	4.8	4.8	4.7	4.9
三次市	—	—	—	—	—	4.7	5.0	5.6	5.2	5.2
庄原市	4.9	4.8	4.8	4.8	4.8	—	—	—	—	—
呉市	4.7	4.4	4.5	4.4	4.5	4.3	4.5	4.6	4.6	4.8
福山市	5.1	5.2	5.2	4.9	5.2	5.0	5.3	6.0	5.3	5.1
竹原市	—	—	—	—	—	—	4.5	4.3	4.3	4.4
大竹市	—	—	—	—	—	—	4.7	4.4	4.5	4.6
東広島市	—	—	—	—	—	—	4.6	4.5	4.4	5.0

*11月は欠測、また7月13日～17日は欠測
(注) 調査地点により、算出方法が異なる。

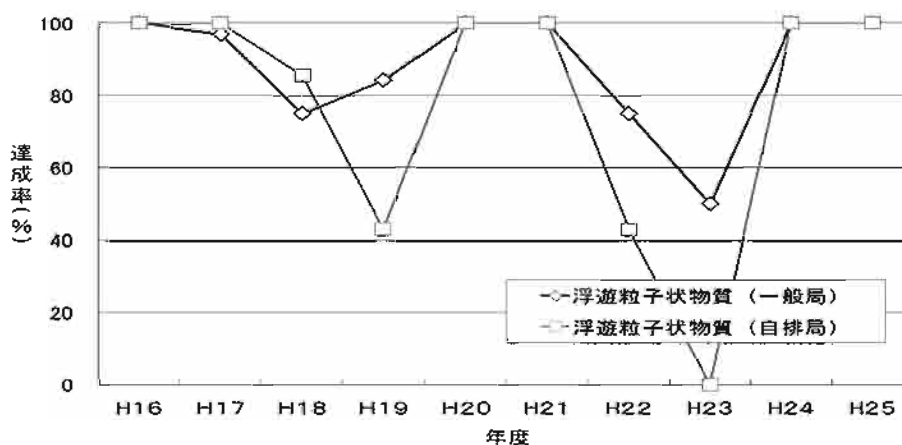
資料：県環境保全課、広島市、呉市、福山市、竹原市、大竹市、東広島市

近年、過放牧や耕地の拡大等の人為的な要因で、中国、モンゴルからの黄砂の飛来が大規模化しており、その対策が関係国間で共通の関心事となっています。黄砂粒子の分析から土壌起源ではないと考えられるアンモニウムイオン、硫酸イオン、硝酸イオンなども検出され、飛来途中で人為起源の大気汚染物質を取り込んでいる可能性も示唆されています。

広島県でも、黄砂の影響により、浮遊粒子状物質³が高濃度になる日が例年観測されていますが、平成25年度は観測されませんでした。(平成25年度黄砂飛来日数：1日)

また、平成25年1月の中国の深刻な大気汚染の影響により、県内でも濃度が上昇した「微小粒子状物質(PM2.5)」に大きな関心が寄せられており、引き続き、PM2.5常時監視体制の強化、成分分析の実施及び県民への迅速な情報提供等を行います。

図表 3-1-3 浮遊粒子状物質の環境基準達成率



資料：県環境保全課

【環境の状態等を測る指標】

指標項目 (内容)	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H25)	目標値	目標年度
環境基準達成率：二酸化窒素	%	100	100	100	H27
環境基準達成率：浮遊粒子状物質		100	100	100	
環境基準達成率：ベンゼン		100	100	100	
環境基準達成率：ジクロロメタン		100	100	100	

3 浮遊粒子状物質：大気中に浮遊する粒子状物質であってその粒径が10μm以下のものをいう。

【取組状況】

(1) 効果的・効率的な監視・情報提供体制の整備

ア 大気汚染の常時監視等 [環境保全課]

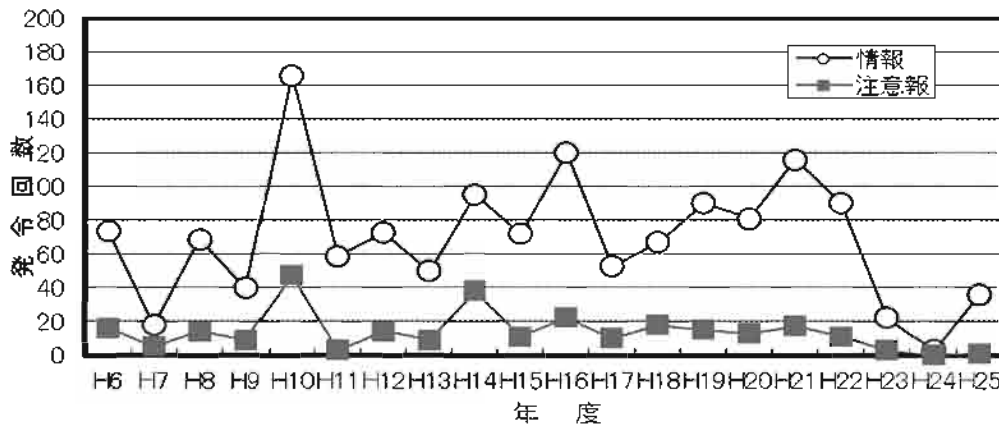
県内の大気汚染の状況を常時監視するため、11市3町に設置した39局の大気測定局と中央監視局で構成する監視システムにより、大気汚染物質や気象状況を常時測定しており、大気汚染による人の健康被害等を未然に防止するため、緊急時に工場等にばい煙の排出削減を要請する措置や、県民への周知及び大気汚染予報等の対策を実施します。また、主要発生源の企業11社に発生源測定局を設置し、硫黄酸化物、窒素酸化物の排出状況を監視します。

【平成25年度実績】監視システムにより、大気汚染物質や気象状況の常時測定を行い、ばい煙の排出削減等必要な措置や県民への周知等を実施。光化学オキシダントに係る緊急時発令については、情報を32回、注意報を1回発令。毎時データや発令情報はホームページ、携帯電話サイトに公開し、迅速な情報提供を図った。《測定結果は、「広島県環境データ集」参照》

微小粒子状物質(PM2.5)については、新たに広島市1局、呉市1局、福山市1局で測定を開始し、県内13局での監視体制となりました。また、平成25年12月から、微小粒子状物質(PM2.5)の高濃度予報を実施する場合の基準を、早朝だけでなく午前中の状況からも実施できるように改正しました。

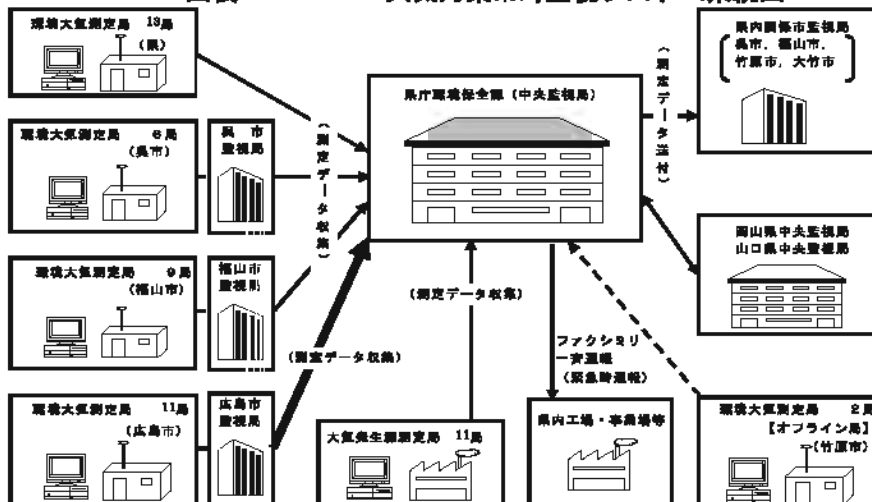
【平成26年度内容】引き続き、監視システムにより常時測定を行い、必要な措置や県民への周知等を実施。

図表 3-1-4 光化学オキシダントに係る緊急時発令状況



資料：県環境保全課

図表 3-1-5 大気汚染常時監視システム系統図



大気汚染物質の監視・予測システム

(2) 固定発生源対策の推進

ア 排出規制の実施 [環境保全課]

工場・事業場からのばい煙（硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん等）及び粉じん等について、大気汚染防止法及び生活環境保全条例による規制を実施します。また、大気汚染事故が発生した場合には、「広島県危機対策運営要領（大気汚染事故）」（平成21年度策定）に基づき、関係機関と連携して速やかな対応を実施します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】大気汚染防止法及び生活環境保全条例に基づき、立入指導を実施。平成25年度は、全工場(3,327工場)のうち、936工場に立入検査を実施し、9工場に対し、行政指導。《立入検査状況は、「広島県環境データ集」参照》

イ 揮発性有機化合物（VOC）⁴の排出抑制 [環境保全課]

浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントによる大気汚染の防止を目的として、原因物質の一つであるVOCの排出量を削減するため、工場の立入検査を実施し、平成22年4月から排出基準が適用された既存施設について引き続き指導を強化します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】排出基準適用施設に対し、排出濃度検査等を実施するとともに、必要に応じて改善等の指導を行う。また、基準適用外施設に対してもガイドライン等を活用し、自主的な取組を支援。平成25年度は27件の立入調査を実施。

ウ 有害大気汚染物質のモニタリング [環境保全課]

大気中の濃度が低濃度であっても、人が長期的に曝露された場合に、発ガン性など健康への影響が懸念される有害大気汚染物質による大気の汚染状況を把握するため、ベンゼン等の環境基準設定物質を含む21の優先取組物質について月1回のモニタリングを実施します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】県内15箇所モニタリングを実施。平成25年度は、環境基準値又は国の指針値がある項目について基準値等を超過するものはなし。《測定結果は、「広島県環境データ集」参照》

(3) 自動車排出ガス対策・交通の円滑化の推進

ア 生活環境保全条例に基づく県民・事業者等の取組の推進

(ア) 駐車時のアイドリング・ストップ [環境保全課]

【平成25年度実績・平成26年度内容】駐車時のアイドリング・ストップについて、各種媒体による広報活動を実施。

(イ) 駐車場管理者等の責務 [環境保全課]

【平成25年度実績・平成26年度内容】一定規模以上の駐車場を設置・管理する駐車場管理者等に対して、駐車時でのアイドリング・ストップの駐車場利用者への周知の実施について、広報活動を実施。

(ウ) 自動車使用合理化計画書⁵の作成 [環境保全課]

【平成25年度実績・平成26年度内容】一定規模以上の自動車を使用する事業者に対して、事業者等が加盟している各種団体等を通じて、自動車使用合理化計画書の作成等の啓発・広報活動等を実施。

4 VOC：Volatile Organic Compoundsの略称で、常温常圧で大気中に容易に揮発する有機化学物質の総称。

5 自動車使用合理化：自営配送から委託配送への転換、複数の荷主との共同輸配送、公共交通機関の利用などにより、自動車の走行量を削減すること。

イ 自動車交通量削減対策の推進

(ア) 都市交通円滑化の推進 [都市計画課]

広島・福山都市圏の都市交通問題（渋滞，地球温暖化）を解決するため，パーク&ライド⁶を始めとした交通需要マネジメント⁷施策など都市交通円滑化施策を推進します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】広島都市圏においては，パーク&ライドの利用を促すため，駐車場情報を提供するホームページを運営するとともに，広報誌やイベント等で利用の呼びかけを実施。また，平成 25 年度は，店舗利用型パーク&ライド社会実験を実施。

福山都市圏においては，ノーマイカー運動を主体とした取組に加え，中心部ループバスやレンタサイクルなどの取組を実施。

ウ 交通流円滑化のための基盤整備の推進

(ア) 環状道路・バイパスの整備 [道路企画課]

自動車交通が適切に分散され，渋滞が緩和・解消されるよう，環状道路やバイパスの整備を推進します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】広島高速道路等（広島都市圏），その他のバイパス等について整備。

(イ) 街路事業 [都市計画課]

道路交通流の円滑化を図るため，路上工事の縮減に留意しつつ，環状道路・バイパス等の道路網の整備，道路の立体交差化，交差点の改良等の道路構造の改善といった基盤整備を推進します。

【平成 25 年度実績】神辺水呑線他 16 路線を整備。

【平成 26 年度内容】18 路線を整備予定。

(ウ) 交通管制システムの高度化 [交通規制課]

a 信号制御の高度化

自動車交通の円滑化を図るため，交通流や交通量に応じたきめ細かな信号制御を推進します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】交通渋滞・混雑が著しい広島市内において集中制御機及び車両感知器を更新し，より適正な信号制御を推進。

b 道路交通情報等の充実

交通の分散化を図るため，光ビーコン⁸や交通情報板等の効果的な運用により，ドライバーに対して所要時間情報や渋滞情報，規制情報などの道路交通情報をタイムリーに提供します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】交通の分散による車両の流れの円滑化を図るため，交通情報板，光ビーコン等による渋滞情報，規制情報等の積極的な広報。

※関連事業：「自動車使用合理化計画」策定・公表制度（P8）

6 パーク&ライド：都心の外周部や都市周辺部の駐車場に自動車等をとめて，そこから都心部まで公共交通機関を利用すること。

7 交通需要マネジメント：自動車の効率的利用や，公共交通への利用転換，時間や経路の変更などを進めることにより，交通渋滞の緩和を図り，環境の改善や地域の活性化を目指す取組。

8 光ビーコン：光（目には見えない近赤外線）を用いて車載機との双方向通信を行うもの。車両の存在を感知する車両感知器としての機能も持っている。

(4) 低公害車の普及促進

ア 生活環境保全条例に基づく自動車利用者等の取組の推進 [環境保全課]

「生活環境保全条例」に基づく「県自動車使用合理化計画」(平成21年3月改定)の達成に向け、県公用車の自動車使用合理化や低公害車の導入等を図るとともに、環境に配慮した運転等を推進します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】低公害車の導入促進及びエコドライブ⁹研修・LANパソコン起動画面へのエコドライブ喚起情報の掲載等を通じた職員への周知。

イ 自動車排出ガス規制 [環境保全課]

大気汚染防止法により、自動車排出ガスについて窒素酸化物、炭化水素、一酸化炭素等の規制がされており、段階的に強化されています。

《規制の概要は、「広島県環境データ集」参照(県環境情報サイト「エコひろしま」に掲載)》

【平成25年度実績・平成26年度内容】エコドライブの推進等の広報・啓発を実施。

※関連事業：ひろしまEVタウン推進事業(P9)、県庁舎急速充電器整備・開放事業(P9)、環境に配慮した自動車に対する自動車税の減税(P9)、環境に配慮した次世代低公害車の導入(P9)

(5) 新たな汚染物質の監視体制の整備

ア 酸性雨モニタリング調査 [環境保全課]

地域環境への酸性物質の蓄積動向に着目し、県では三次市における降雨のモニタリングを継続して実施するとともに、市におけるモニタリング調査結果も含め監視を行います。

【平成25年度実績・平成26年度内容】平成25年度は県全体では7市で降雨モニタリング調査が実施されているが、経年的にはほぼ横ばいの傾向。

⁹ エコドライブ：二酸化炭素や大気汚染物質の排出削減のための環境に配慮した運転。具体的には、駐車時に原動機を停止する(アイドリング・ストップ)、経済速度で走る、無駄な荷物を積まない、空ぶかしをやめる、急発進・急加速・急ブレーキをやめる、マニュアル車は早めにシフトアップする、渋滞などを招く違法駐車をしない、エアコンの使用を控えるにすることがあげられる。

2 健全な水循環の確保

【現状と課題】

(1) 公共用水域¹⁰の環境基準達成状況

ア 健康項目

人の健康の保護に関する項目（カドミウムなど27項目）については、延べ140の全地点で環境基準を達成しています。《測定結果は、「広島県環境データ集」参照》

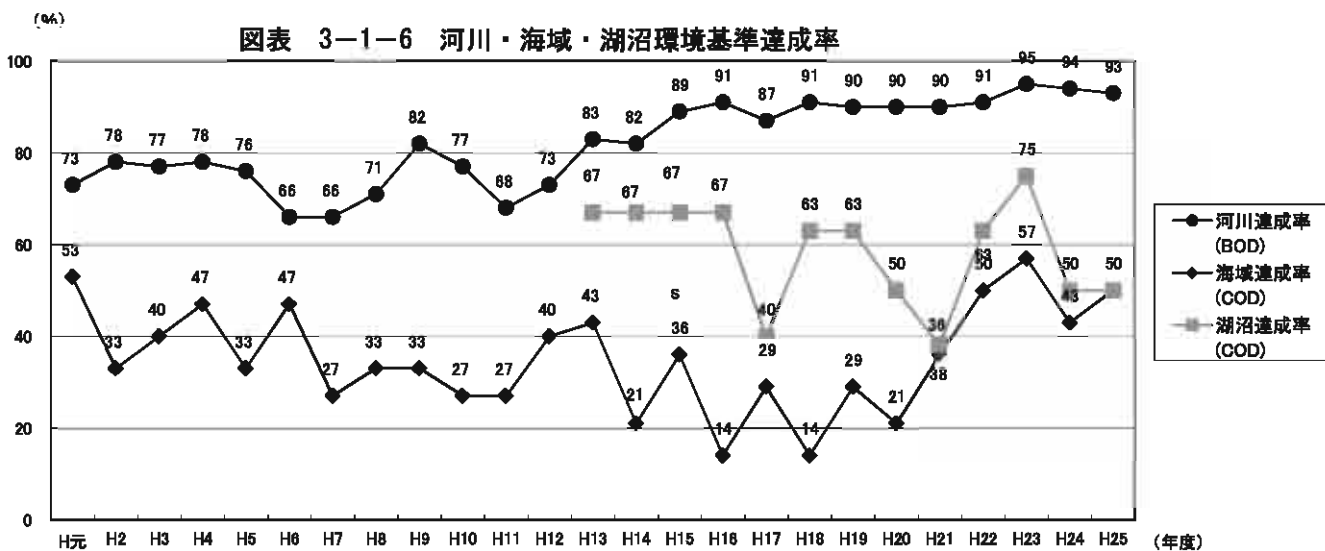
イ 生活環境項目

環境基準の類型が指定されている河川24水系82水域、海域14水域、湖沼8水域におけるBOD¹¹（河川）・COD¹²（海域・湖沼）の環境基準の達成状況は、過去5か年（平成21年から25年度）の平均と比べて、河川及び海域は横ばい、湖沼はやや悪化の傾向となっています。

河川のBODの環境基準達成率は高い状況ですが、都市部の河川では、生活排水による汚濁がみられ、環境基準が達成されていません。

また、県内で排出されるCOD汚濁負荷量は減少傾向で、海域のCOD環境基準達成率は改善傾向にありますが、内部生産¹⁴や藻場・干潟の減少等による浄化機能の低下や、富栄養化¹⁵に伴う赤潮¹⁶も依然として発生していることから、引き続き、海域に流入する汚濁負荷量の計画的な抑制が必要となっています。《類型指定状況と測定結果は、「広島県環境データ集」参照》

また、全窒素及び全りん¹³の環境基準の類型が指定されている海域9水域、湖沼8水域の環境基準の達成状況について、海域全窒素は改善、湖沼全りんは横ばいの傾向です。



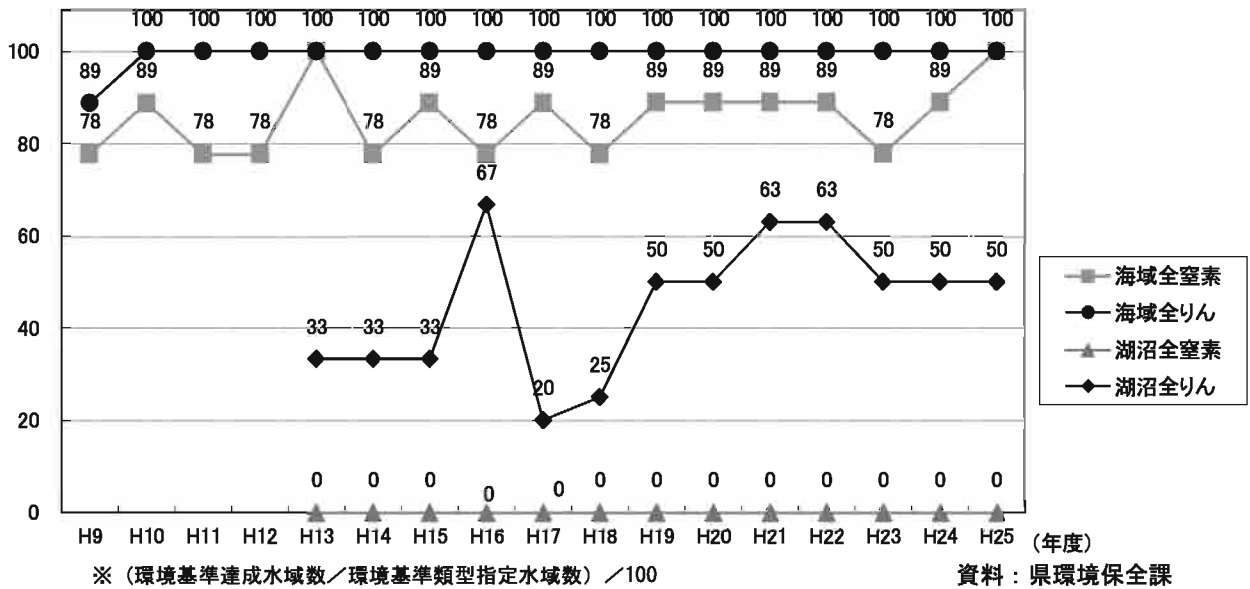
※1 (環境基準達成水域数/環境基準類型指定水域数) × 100

資料：県環境保全課

※2 河川はBOD、海域・湖沼はCODの環境基準達成率

10 公共用水域：河川、湖沼、海域、港湾、沿岸海域など広く一般に開放された水域及びこれらに接続する下水路、用水路等公共の用に供する水域のこと。
 11 BOD：生物化学的酸素要求量。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素の量で、河川で環境基準値が定められている。この値が大きいほど、汚濁の程度も大きい。
 12 COD：化学的酸素要求量。水中の有機物を酸化剤で酸化する時に消費される酸素の量で、湖沼・海域で環境基準値が定められている。この値が大きいほど、汚濁の程度も大きい。
 13 汚濁負荷量：陸域から排出されるCOD、窒素及びりん等の汚濁物質の総量。「汚濁負荷量＝汚濁濃度×排出量」で計算する。
 14 内部生産：湖沼、内湾など閉鎖性水域において、植物プランクトンの増殖（光合成）により有機物が生産されること。植物プランクトンの増殖には、窒素や磷が不可欠であることから、こうした栄養塩類の水域への流入量を削減することにより内部生産を抑制できる。
 15 富栄養化：水の交換が少ない閉鎖性水域において、工場排水等により水中の栄養塩類の窒素やりんなどが増え、プランクトン等が増殖しやすい状態になること。
 16 赤潮：窒素やりんが増加に伴う水域の富栄養化により、水中の植物プランクトンが異常に増殖して水の色が赤褐色や茶褐色に変色すること。

図表 3-1-7 全窒素及び全りん環境基準達成率（海域・湖沼）



ウ 地下水

県内 53 地点で地下水の水質調査を実施しており、環境基準達成率は、近年、8 割前後（平成 25 年度 84.9%）で推移し、ほぼ横ばい傾向です。《測定結果等は、「広島県環境データ集」参照》

(2) 発生汚濁負荷量

県内で排出される汚濁負荷量は、瀬戸内海流域がそのほとんどで、経年的にはやや減少傾向です。

図表 3-1-8 県内で排出される汚濁負荷量（平成 24 年度末現在）

区分		産業排水 (t/日)	生活排水 (t/日)	その他 (t/日)	計 (t/日)
瀬戸内海	COD	23	19	6	48
	窒素	12	13	17	42
	りん	0.6	1.0	0.7	2.3
その他 (江の川)	COD	1	2	2	5
	窒素	0	1	7	8
	りん	0.1	0.1	0.2	0.5
県計	COD	24	20	8	53
	窒素	12	14	24	50
	りん	0.6	1.2	1.0	2.8

※端数処理の関係で、計が合わない場合があります。

資料：県環境保全課

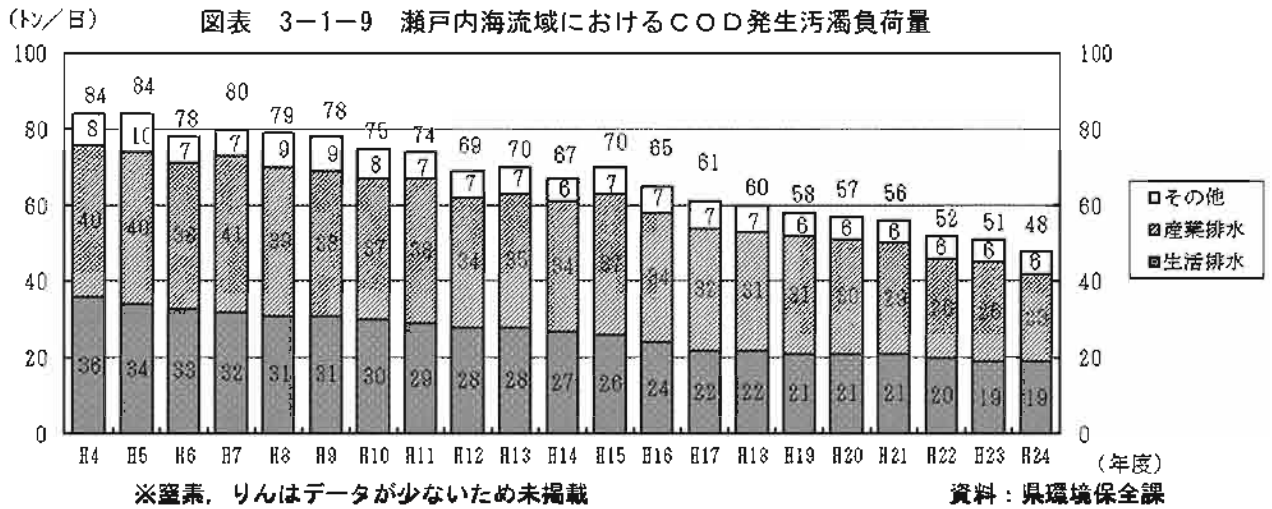
産業排水の発生汚濁負荷量のうち、CODの約4割、りんの約4割が総量規制の対象とならない小規模及び未規制の事業場等から排出されています。

窒素については、指定地域内事業場からの負荷量が約8割を占めています。

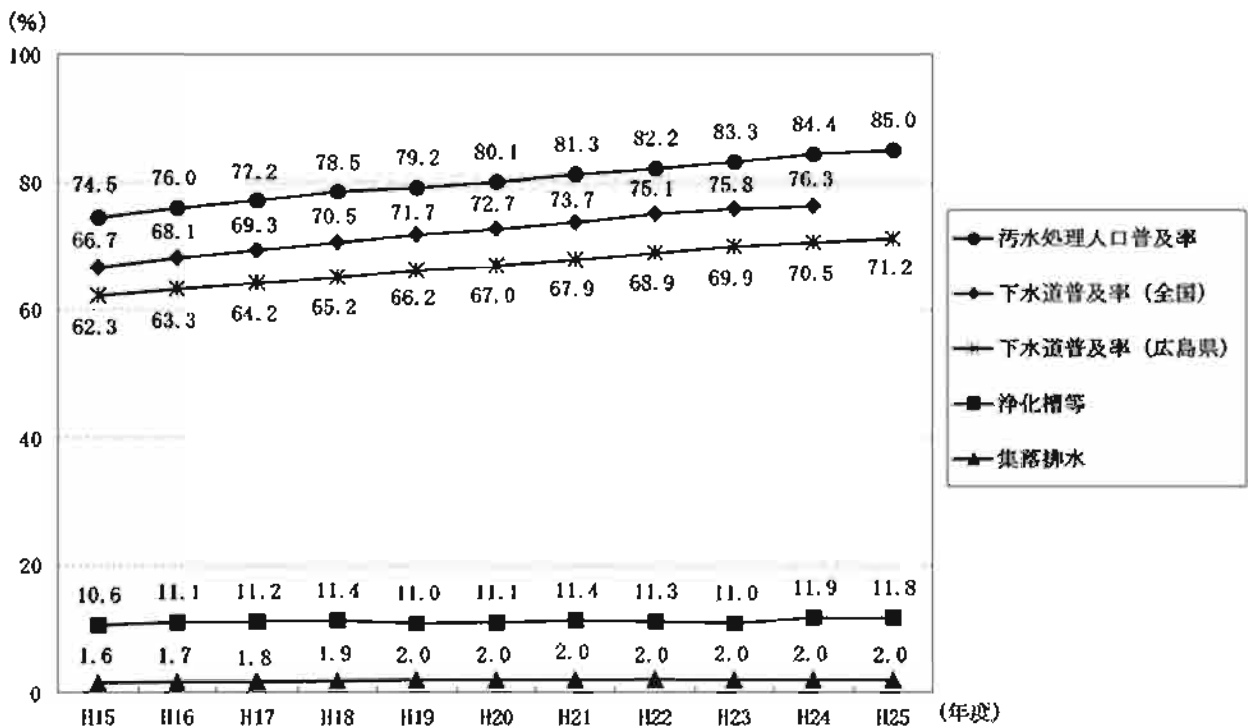
なお、産業排水の業種別の負荷量の割合としては、COD及び窒素では、パルプ・紙製造業、化学工業及び鉄鋼業で約5～7割を占めるなど、工業が盛んな本県の地域性を反映したものとなっています。りんは、食料品製造業の割合が約1割を占めるほかは製造業以外の業種による負荷量が約5割と多くなっています。

また、生活排水の発生汚濁負荷量のうち、CODの約5割、りんの約2割が未処理のまま放流される生活雑排水によるものであり、排水処理施設の整備など、着実な対策が必要です。窒素については、下水道終末処理場からの負荷量が約5割を占めていますが、これは下水道整備の進展により、生活雑排水の処理が進んだ結果です。

なお、汚水処理人口普及率（し尿と生活排水の処理率）を地域別に見ると、市域と町域で格差があり、とりわけ中山間地域では、地形的な条件等により整備が遅れています。《産業排水、生活排水ごとの発生源別汚濁負荷量の割合等は、「広島県環境データ集」参照》



図表 3-1-10 汚水処理人口普及率



(注) 平成25年度は速報値

資料：県循環型社会課、県農業基盤課、県港湾漁港整備課、県下水道公園課

環境省「環境白書」
資料集「環境データ集」

(3) 富栄養化の状況

県内の湖沼や海域においては、生活排水等の流入による窒素・りん濃度の上昇（富栄養化）が原因となり、植物プランクトンが繁殖して赤潮や水道水源の利水障害が発生しています。

椋梨ダムでは、過去10年来、水の華・アオコが発生しており（平成25年度は56日確認）、特に、平成8年には下流の宮浦・坊土浄水場の濾過障害の遠因と考えられ、平成12年には貯水池内のアオコの大量発生による異臭及び景観阻害が生じているため、水質保全対策が必要とされています。《赤潮発生海域概要及び椋梨ダムのアオコ確認日数は、「広島県環境データ集」参照》

図表 3-1-11 赤潮発生状況

年	発生件数		発生継続日数別件数 (広島県)				発生日数 (広島県)		漁業被害を伴った件数	
	広島県	瀬戸内海	5日以内	6～10日	11～30日	31日以上	発生日数	平均日数	広島県	瀬戸内海
H16	5	118	1	2	2	0	54	15	2	13
H17	8	115	0	1	5	2	200	28	0	7
H18	9	94	0	2	4	3	282	41	1	11
H19	3	99	0	1	1	1	143	47	0	9
H20	2	116	0	0	1	1	50	25	0	19
H21	4	104	0	0	0	4	233	58	0	7
H22	4	91	0	0	0	4	169	42	0	9
H23	2	89	0	0	1	1	59	30	1	13
H24	3	116	0	1	0	2	96	32	0	18
H25	6	121	0	0	3	3	195	33	0	10

資料：水産庁瀬戸内海漁業調整事務所，県水産課

(4) 水循環

水は、蒸発・降水・浸透・貯留・流下・海への流入という過程を繰り返す中で浄化されますが、都市への急速な人口・産業の集中と過疎化の進行、産業構造やライフスタイルなどの社会変化を背景として水循環が急激に変化したことにより、河川流量や雨水浸透量の減少、湧水の枯渇、水質汚濁、生態系への影響などの諸問題が生じています。

こうした問題の解決を図るためには、それぞれの地点で環境の質を判断し、汚濁負荷の低減を通じて環境の保全を図る「場の視点」による取組とあわせ、水源となる森林から海に至る河川の流域を一体的な水循環系として捉える「流れの視点」に基づいて、河川流量や地下浸透量の保全等を図る取組が不可欠です。併せて、家庭や工場・事業場における水の合理的・循環的な利用をさらに進めていく必要があります。

【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H25)	目標値	目標 年度
環境基準達成率：河川BOD	%	90.2	92.7	達成率の向上を図る	設定なし
環境基準達成率：海域COD		35.7	50.0		
環境基準達成率：海域全窒素		88.9	100		
環境基準達成率：海域全りん		100	100	100	H27
環境基準達成率：地下水		86.7	84.9	達成率の向上を図る	設定なし
COD汚濁負荷量（瀬戸内海水域）： 生活系COD	t/日	21 (H20)	19 (H24)	17	H26
COD汚濁負荷量（瀬戸内海水域）： 産業系COD		30 (H20)	23 (H24)	30	
COD汚濁負荷量（瀬戸内海水域）： その他COD		6 (H20)	6 (H24)	6	
汚水処理人口普及率	%	81.3	85.0 (速報値)	83.9	H25

【取組状況】

(1) 生活排水処理対策（し尿等）の推進

ア 下水道の整備促進 [下水道公園課]

(ア) 公共下水道の整備

公共用水域の水質改善及び生活環境の改善を目指して、市町の下水道整備を推進します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】14市8町で、下水道整備を実施。

(イ) 流域下水道の整備

市街化の進展が著しい河川流域について、流域を一体とした効果的な下水処理を行うため、各浄化センターの建設を推進するとともに、維持管理を行います。

【平成25年度実績・平成26年度内容】太田川流域下水道については、東部浄化センターの建設及び維持管理を実施（平成25年度末現在、148,380 m³/日で稼働）。また、窒素・りん除去を目的に高度処理を実施。芦田川流域下水道については、芦田川浄化センターの建設及び維持管理を実施（平成25年度末現在、179,200 m³/日で稼働）。沼田川流域下水道については、沼田川幹線の建設及び沼田川浄化センターの建設及び維持管理を実施（平成25年度末現在、23,800 m³/日で稼働）。

イ 農業・漁業集落排水処理施設の整備促進

(ア) 農業集落排水事業 [農業基盤課]

農業振興地域内の農業集落において、農業用水や公共用水域の水質改善及び生活環境の改善を目指して、農業集落排水施設の整備を推進します。

【平成25年度実績】1地区について整備。

【平成26年度内容】1地区について整備。

(イ) 漁業集落環境整備事業 [港湾漁港整備課]

漁港区域背後の漁業集落において排水処理施設を整備することにより、前面海域への負荷を低減するとともに、集落内の生活環境の改善を図ります。

農業・漁業集落排水処理施設の整備

【平成 25 年度実績】汚水管路，処理場等を 2 地区で整備。

【平成 26 年度内容】汚水管路等を 1 地区で整備。

ウ 浄化槽の整備促進等 [循環型社会課]

(ア) 浄化槽の整備

集合処理施設の整備が地理的・経済的に困難な地域において生活排水対策を推進するため，小型浄化槽設置整備事業及び浄化槽市町村整備推進事業を実施します。また，し尿のみを処理する単独処理浄化槽が多数設置されていることから，生活雑排水を併せて処理する合併処理浄化槽への転換を推進します。

区分	小型浄化槽設置整備事業	浄化槽市町村整備推進事業
事業の内容	個人設置の浄化槽（単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換に限る。）に助成する市町に対し，市町の事業費の 1/3×減額率（一律）を事業実施年度に補助	市町が公共事業として浄化槽を整備する事業に対し，市町の起債元金償還額（交付税措置分を除く。）の 1/2 もしくは 1/3 を起債償還年度に補助

【平成 25 年度実績】小型浄化槽設置整備事業で 18 市町（1,068 基の浄化槽），浄化槽市町村整備推進事業で 3 市（239 基の浄化槽）に対し補助。

【平成 26 年度内容】小型浄化槽設置整備事業で 19 市町（1,397 基の浄化槽），浄化槽市町村整備推進事業で 3 市（270 基の浄化槽）に対し補助。

(イ) 浄化槽の管理（浄化槽対策事業，浄化槽適正維持管理促進事業）

浄化槽の適正な維持管理の徹底をパンフレットなどにより普及啓発するとともに，法定検査結果等に基づいて浄化槽の効率的な立入検査を実施し，不適正な浄化槽については，改善等を指導します。

また，市町や法定検査機関等と連携して，浄化槽の適正な維持管理の促進を図るとともに，未受検者に対する適切な指導や法定検査に関するより効果的な普及啓発などにより，平成 27 年度までに法定検査の受検率が概ね 70%となるよう，受検率の向上を図ります。

図表 3-1-12 浄化槽の法定検査の受検率の推移

(単位：%)

区 分	年 度					全 国 (H24)
	H21	H22	H23	H24	H25 (推計値)	
新設時の検査(7条検査)	99.7	99.7	99.8	99.6	100.0	91.0
定 期 検 査(11条検査)	42.7	49.9	50.3	58.7	58.1	33.4

資料：県循環型社会課

【平成 25 年度実績】浄化槽設置（管理）者，浄化槽保守点検事業者等への文書指導，立入検査等を実施。浄化槽の適正な維持管理促進のための検討会を開催し，課題や対応方策を検討。

【平成 26 年度内容】引き続き，市町や法定検査機関と連携し，要綱整備や台帳精度の向上を図るとともに 25 年度に開催した検討会の検討結果を踏まえて，浄化槽の適正管理について啓発，指導を行い，受検を促進する。

エ 生活排水浄化対策推進要綱等に基づく取組 [環境保全課]

生活排水対策の推進に関して基本となる生活排水浄化対策推進要綱により，全県的な生活排水対策を推進します。さらに，水質汚濁が懸念される河川や湖沼については，生活排水対策重点地域の指定（黒瀬川・高屋川・山南川・二河川・藤井川）等による対策を講じます。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】市町や関係団体の協力を得て，普及啓発活動を実施するとともに，計画の推進を図るため，計画の進行状況の把握や関係機関相互の連絡調整などを実施し，住民，事業者，行政が一体となった生活排水対策を推進。

(2) 瀬戸内海に流入する負荷量の削減

ア 排水規制等の実施 [環境保全課]

特定事業場からの排水に対しては、水質汚濁防止法や生活環境保全条例等により排水基準や総量規制基準を設定し排水規制を実施します。また、排水規制を受けない小規模の事業場に対しては、排水処理施設の適正な維持管理などについて指導を行います。《特定事業場の届出状況は、「広島県環境データ集」参照》
【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】立入検査や排水検査を実施し、処理施設、排水方法の改善等が必要な事業場については、適切な排水等を行うよう指導。さらに、行政処分による措置が必要と認められた場合は、改善命令等の行政処分を実施。《立入検査数は、「広島県環境データ集」参照》

イ 化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量削減計画の推進 [環境保全課]

第7次総量削減計画（平成24年2月20日策定（告示））に基づき、瀬戸内海に流入する汚濁負荷量の総量を総合的かつ計画的に抑制します。計画達成の方策として、下水道・合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の整備（生活排水対策）、総量規制基準による工場・事業場の排水対策や小規模事業場排水対策（産業排水対策）、農地からの負荷低減対策、畜産排水対策、養殖漁場の環境改善等を行います。

図表 3-1-13 第7次総量削減計画負荷量 (単位：t/日)

区分	26年度(目標年度)	21年度(基本年度)	削減
COD	53	56	△3
窒素	42	43	△1
りん	2.4	2.5	△0.1

資料：県環境保全課

【平成 25 年度実績】工場・事業場への立入検査を行い総量規制基準の遵守及び汚濁負荷量の測定状況等の監視・指導等により、第7次総量削減計画（平成24年2月策定）を推進。

※ 特定事業場の汚濁負荷量自動測定器設置状況（平成25年度末現在）：COD217基、窒素178基、りん178基

【平成 26 年度内容】引き続き、工場・事業場の監視・指導を実施。

ウ 公共用水域等の常時監視等 [環境保全課]

公共用水域や地下水の水質及び底質の状況を把握するため、測定計画を策定し、水質の常時監視を行います。大規模な工場・事業場については、水質・水量等を定期的に把握し、汚濁負荷量の効果的な監視を行います。《測定結果と監視網は、「広島県環境データ集」参照（県環境情報サイト「エコひろしま」に掲載）

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】水質の常時監視を実施。（平成25年度実績は次のとおり。）

項目	対象水域等
公共用水域	河川：38水系235地点、海域：6海域66地点、湖沼：8水域8地点
底質	河川：5水系12地点、海域：3海域14地点

エ 各種調査 [環境保全課]

水質保全対策の一環として、海水浴場調査や水生生物調査等の各種調査を実施します。

《調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】県内の主要海水浴場の水質調査を開設前（5月）15箇所、開設中（7月）14箇所を実施。平成25年度は、いずれも海水浴に適した水質であり、病原性大腸菌O157についても調査した結果、いずれの海水浴場からも検出されなかった。

良好な水環境の確保
健全な水循環の確保

オ 養殖漁場における環境負荷の削減 [水産課]

魚類養殖における給餌方法及び放養密度の適正化等の指導により、水質汚濁負荷量の削減を図ります。
【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】魚類養殖における給餌方法及び放養密度の適正化等を指導。平成 25 年度は県内説明会(海面 2 箇所, 内水面 1 箇所), 巡回指導(海面 10 箇所, 内水面 10 箇所)を実施。

カ 赤潮対策 [水産課]

(ア) 監視通報体制の強化

赤潮による漁業被害を未然に防止するため、国及び瀬戸内海沿岸域の 1 府 10 県の観測データを情報交換するとともに、県内拠点漁協からの通報、水産海洋技術センター及び関係農林水産事務所の赤潮発生状況調査等を基に赤潮情報を発令し、カキ、ハマチ、タイ等養殖業の漁業被害の軽減を図ります。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】国及び瀬戸内海沿岸府県との情報交換(随時)や赤潮情報の発令により、赤潮による漁業被害の未然防止を図る。13 件の赤潮情報を発令。

(イ) 調査研究の推進

赤潮発生機構を解明するため、水温、塩分、溶存酸素、栄養塩類及び赤潮プランクトンを調査します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】平成 25 年度は 12 回の定期水質調査、10 回の有害赤潮の発生特性調査を実施。

(ウ) 研修会の開催

赤潮、漁場環境保全に関する知識、技術を漁業者等に普及させるため、研修会を開催します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】漁業者等を対象にした研修会を 2 回開催。

キ 持続性の高い農業生産方式の導入推進 [農業産地推進課]

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、たい肥等を使った土づくりと化学肥料・農薬の使用の低減を一体的に行おうとする者に対して、認定権限を持つ市町とともに、農業生産方式の導入計画を認定します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】認定を受けようとする者への助言等を実施。平成 25 年度は 90 件(県認定 16 件, 市町認定 65 件)の計画を認定。

ク 特別栽培農産物の推進 [農業産地推進課]

農林水産省の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づき生産された農産物を「安心! 広島ブランド」として認証し、環境への負荷をできる限り低減した栽培方法の普及促進を図ります。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】制度の啓発を図り、認証を推進。平成 25 年度は 195 件を認証。

ケ 耕畜連携による資源循環型畜産の推進 [畜産課]

畜産経営の健全な発展のため、「広島県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画」に基づいて、家畜排せつ物の管理の適正化を図り、畜産環境の保全及び資源循環型畜産の確立を積極的に推進します。

また、家畜排せつ物の適正な管理による畜産環境の保全並びにたい肥化等による家畜排せつ物の農地へのリサイクルを推進するため、資源循環型畜産推進指導協議会(以下「指導協議会」)による巡回指導等を実施します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】

指導協議会による畜産農家の巡回指導を実施。平成 25 年度は 19 戸を指導。

コ 家畜排せつ物処理施設整備の推進 [畜産課]

家畜排せつ物の適正な管理と良質たい肥の安定的な生産及び利用の促進を図るため、たい肥化を基本とした家畜排せつ物処理施設及びたい肥保管施設の整備を計画的に推進します。

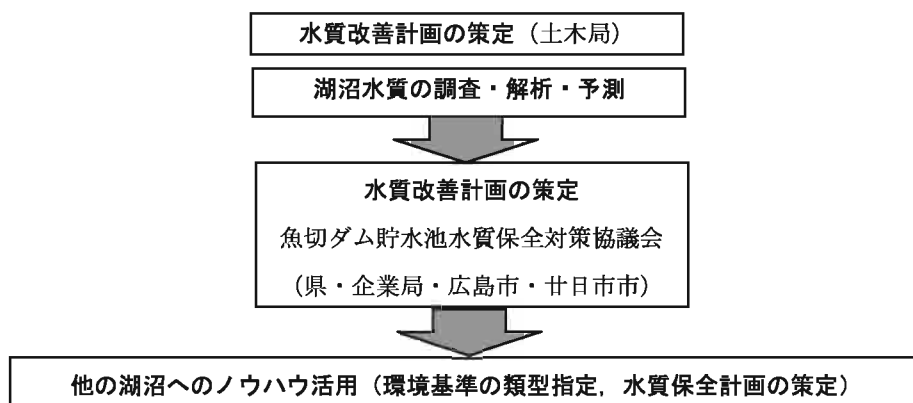
【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】

たい肥保管施設を整備。平成 25 年度は 1 箇所を整備。平成 26 年度は 1 箇所の整備を計画。

サ 湖沼水質改善対策 [環境保全課・河川課]

魚切ダム貯水池のアオコの発生による利水障害を改善するため、湖沼水質改善対策事業を行います。また、この事業の成果は、他の湖沼の水質保全対策に反映させます。

図表 3-1-14 湖沼水質対策の概要



【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】魚切ダム貯水池水質改善計画（平成 22 年 2 月改正）に基づき、発生源対策としての生活排水対策及び農業排水対策，土壌浄化施設による流入河川対策及び曝気循環装置によるダム湖内対策を実施することにより，関係機関と連携を図りながら，水質改善対策を推進。

また，啓発活動の一環として，本取組をホームページで公開し，関係住民への周知を実施。

シ 河川底質改善実証実験事業 [河川課]

河川環境整備の一環として，広島大学，中国電力との産学官連携により京橋川の環境悪化の原因となっているヘドロを浄化するため，底質改善に一定の効果がある石炭灰造粒物を活用した実証実験を行い，効率的・効果的な底質改善技術の確立を目指します。また，県内にある優れた底質改善技術を保有する企業の技術開発の支援育成を図るため，新たな底質改善材料を活用した河川環境整備を実施していきます。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】京橋川において石炭灰造粒物・新たな底質改善材料を活用した底質改善実証試験を実施。

ス 椋梨ダム貯水池水質保全事業 [河川課]

椋梨ダムにおけるアオコの発生を抑制するための水質保全対策を椋梨ダム貯水池水質改善計画（平成 25 年 2 月改正）に基づき，流入河川及び貯水池内で実施します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】水質調査等を継続的に実施するとともに，水質改善計画に基づき，発生源対策としての生活排水対策及び農業排水対策，植生浄化施設及び曝気循環装置によるダム湖内対策を実施。

セ 山田川ダム貯水池水質保全事業 [河川課]

山田川ダムにおけるアオコの発生を抑制するための水質保全対策を山田川ダム水質改善計画（平成23年3月改正）に基づき、流入河川及び貯水池内で実施します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】水質調査等を継続的に実施するとともに、水質改善計画に基づき、発生源対策としての生活排水対策及び農業排水対策、植生浄化施設及び曝気循環装置によるダム湖内対策を実施。

ソ 福富ダム貯水池水質保全事業 [河川課]

福富ダムにおけるアオコの発生を抑制するための水質保全対策を福富ダム貯水池水質保全計画（平成25年2月策定）に基づき、流入河川及び貯水池内で実施します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】水質調査等を継続的に実施するとともに、水質保全計画に基づき、発生源対策としての生活排水対策及び農業排水対策、植生浄化施設及び曝気循環装置によるダム湖内対策を実施。

(3) 水源林の保全・整備の推進

ア 水源地域整備事業 [森林保全課]

水源地域において、森林の有する水源涵養機能を高度に発揮させ、水資源の確保と県土の保全に資するため、荒廃地、荒廃移行地の復旧整備及び荒廃森林の整備を総合的に実施します。

【平成25年度実績】特に重要な水源地域において、荒廃した森林等1地区の整備を実施。

【平成26年度内容】引き続き、2地区において整備。

イ 多目的ダム建設事業 [河川課]

水害防除や既得取水の安定化及び河川環境の保全、都市用水などの補給を目的にダムを建設しています。

【平成25年度実績、平成26年度内容】野間川ダムの供用開始（平成25年7月）、庄原ダム建設事業を実施。

(4) 地下水汚染対策の推進

ア 地下水質調査 [環境保全課]

「水質汚濁防止法」に基づき、地下水の汚染状況を監視するため地下水調査を行います。

【平成25年度実績】県内55地点での調査を実施。

【平成26年度内容】県内50地点での調査を実施。

3 騒音・振動、悪臭の防止

【現状と課題】

(1) 騒音

近年の騒音公害は、都市化の進展や生活様式の多様化に伴い、深夜営業や日常の家庭生活に起因する近隣騒音が問題となっています。

騒音の環境基準は、住民の生活環境を保全する観点から、都市計画法に基づく用途地域の指定状況等の土地の利用形態、時間区分及び発生源（航空機及び新幹線鉄道等）に応じて指定されています。

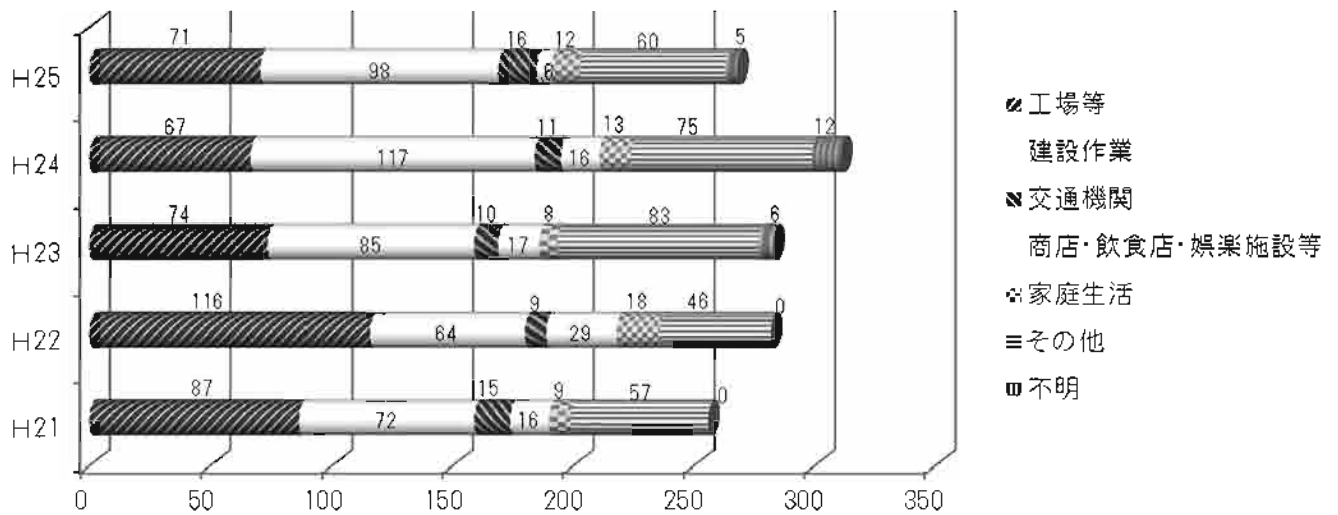
道路の沿線における自動車騒音の環境基準達成率は、依然として低い状況にあります。一定の地域における騒音レベルが基準値を超過する戸数及び割合を把握する「面による評価」（面的評価）で見ると、経年的には横ばいの状況となっています。

航空機騒音については、広島空港周辺で、環境基準を達成しています。（広島西飛行場周辺は廃港に伴い平成24年11月15日付けで環境基準の類型指定を解除）

新幹線鉄道騒音の環境基準達成率については、低い状況にあります。《環境基準達成率は、「広島県環境データ集」参照》

また、近年、人の耳では聞きとれない低周波音（空気振動¹⁸）による問題も生じています。

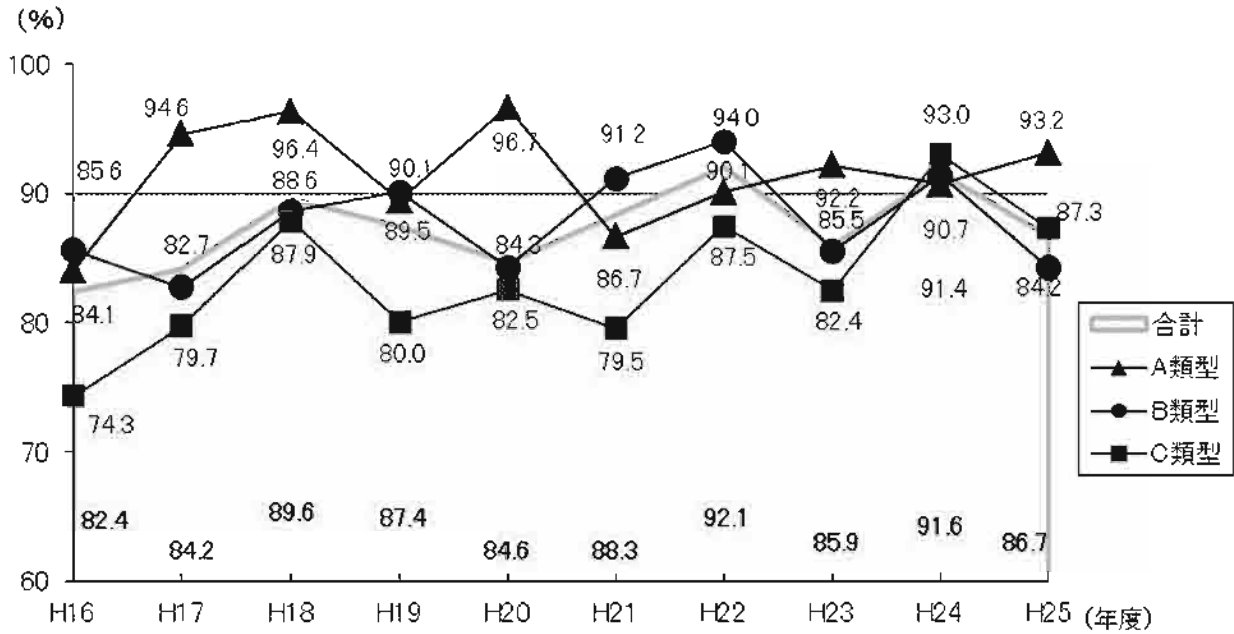
図表 3-1-15 騒音に係る苦情件数の推移



資料：県環境保全課

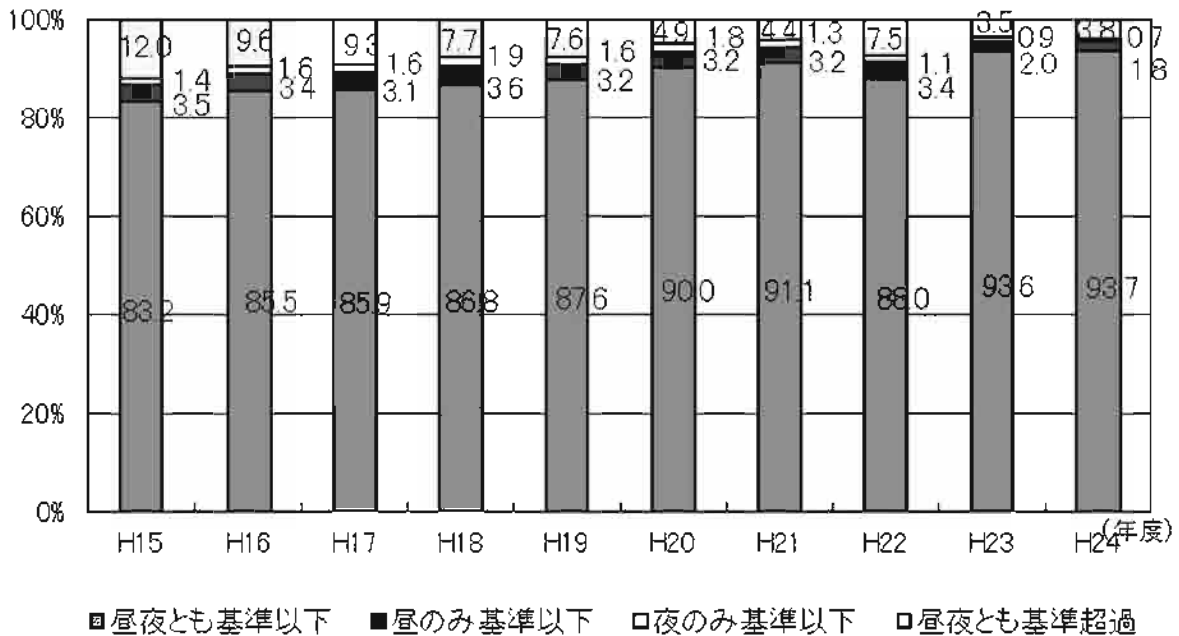
18 低周波音（空気振動）：人の耳には聞こえない20Hz以下の超低周波音と、20～100Hz程度の周波数範囲の音を合わせて、低周波音（空気振動）と通称される。人の聴覚感度が鈍くなる周波数範囲の音である。建具や窓、障子などが振動して音を発し、騒音・振動公害の一因として昭和40年代から問題化した。

図表 3-1-16 一般地域における騒音の環境基準達成率



資料：県環境保全課

図表 3-1-17 自動車騒音の面的評価による環境基準達成率

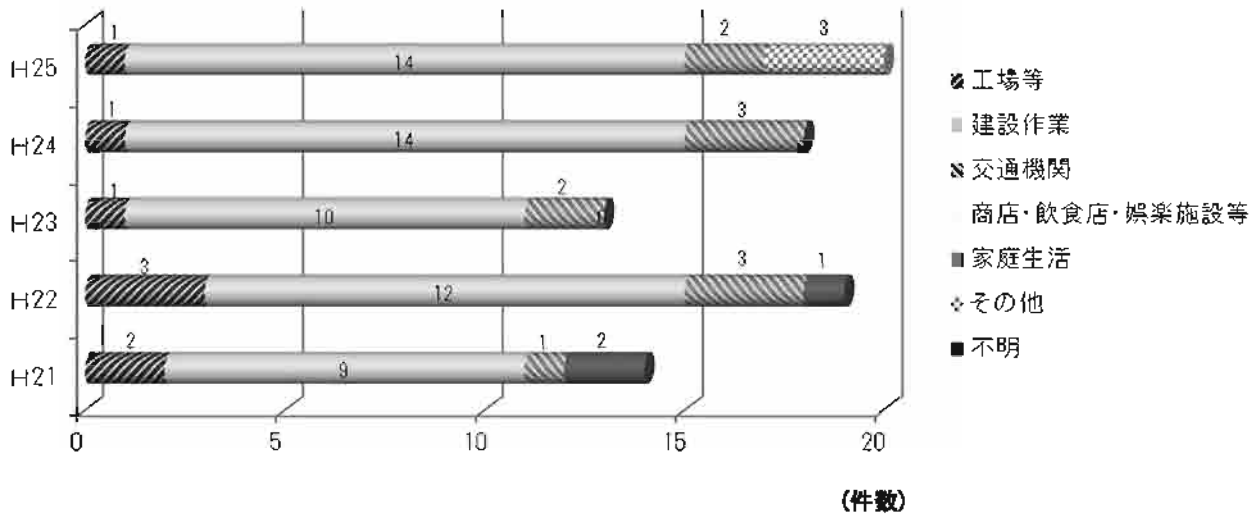


資料：県環境保全課

(2) 振動

振動公害は、工場、建設作業、交通機関等による人為的な地盤振動が原因で、建物を振動させて、物的又は感覚的被害を与えます。

図表 3-1-18 振動に係る苦情件数の推移



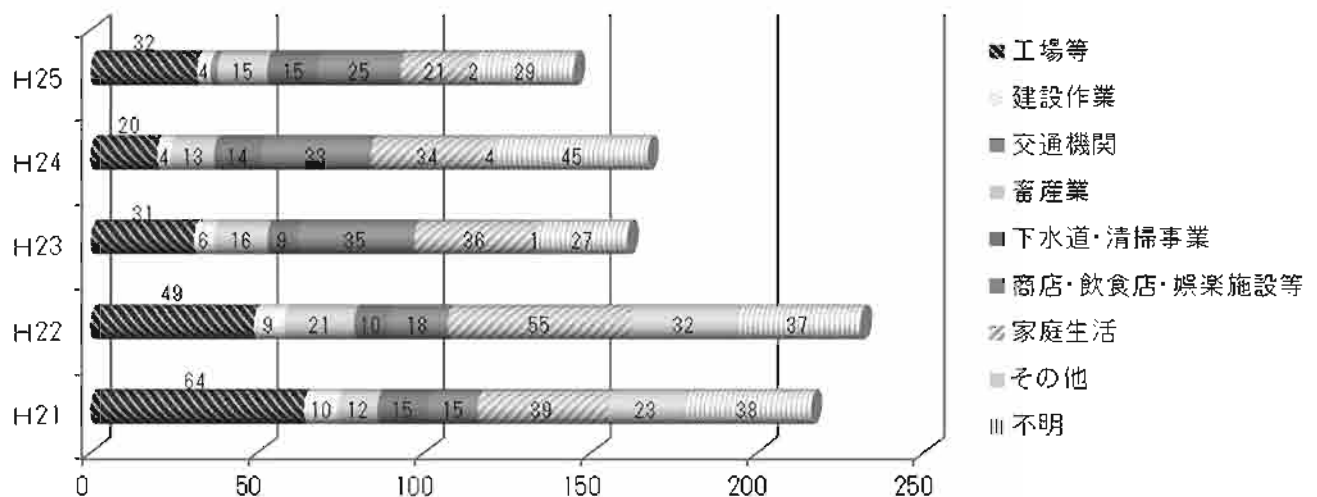
(3) 地盤の沈下

地盤沈下は、主として軟弱地盤において地下水を過剰に採取することによって生じるもので、一旦沈下を生じると、ほとんど回復することが不可能であるという特徴があります。現在、広島県において、地盤沈下が認められる地域はありません。

(4) 悪臭

悪臭の発生源は、製造業、塗装業、畜産業、下水・清掃事業、浄化槽など多種多様あり、様々な臭気物質が複合して生じるものであることから、臭気指数¹⁹に基づく規制の導入が効果的です。

図表 3-1-19 悪臭に係る苦情件数の推移



19 臭気指数：においそのものを人の嗅覚により測定する方法。採取した空気を無臭空気で希釈して実際に人がにおいをかぎ、においのしなくなったときの希釈倍率から算出する。

【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H25)	目標値	目標 年度
環境基準達成率：一般地域における騒音	%	88.3	86.7	達成率の向上を図る	設定なし
環境基準達成率：道路に面する地域における騒音		57.7	73.6		
環境基準達成率：航空機騒音		100	100	100	H27
環境基準達成率：新幹線鉄道騒音		75.0	63.6	達成率の向上を図る	設定なし

【取組状況】

ア 自動車騒音・道路交通振動対策

(ア) 自動車騒音及び道路交通振動の実態把握 【環境保全課】

個々の自動車から発生する騒音は、「騒音規制法」による規制が行われており、段階的に強化されています。自動車騒音については環境基準の指定地域内、道路交通振動については県内主要道路の沿線で測定を実施しています。市町長は、測定の結果、限度を超えて道路の周辺的生活環境が著しく損なわれると認めるときは、県公安委員会に対し、「騒音規制法」又は「振動規制法」に基づき、道路交通法の規定による措置をとるべきことを要請（平成25年度実績なし）したり、自動車騒音について、道路管理者等に対し意見（平成25年度実績なし）を述べます。《測定結果は、「広島県環境データ集」参照》
【平成25年度実績・平成26年度内容】自動車騒音の測定及び面的評価を実施。

イ 工場・事業場の騒音・振動対策

(ア) 工場・事業場等に対する規制の実施 【環境保全課】

a 騒音規制

「騒音規制法」及び「生活環境保全条例」により、指定地域内における特定の工場・事業場、特定の建設作業及び音響機器の騒音規制を実施するとともに、県内全域における深夜騒音、拡声放送等の規制を行います。

【平成25年度実績・平成26年度内容】21市町で規制地域を指定しており、県は、市町に対し、技術的・専門的な助言を行い、市町の円滑な事務執行を支援。平成25年度は市町の立入調査等の結果、改善勧告等の実績なし。《規制状況、届出状況及び立入調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

b 振動規制

「振動規制法」により、指定地域内における特定の工場・事業場、特定の建設作業の振動規制を実施します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】19市町で規制地域を指定しており、県は、市町に対し、技術的・専門的な助言を行い、市町の円滑な事務執行を支援。平成25年度は市町の立入調査等の結果、改善勧告等の実績なし。《規制状況、届出状況及び立入調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

(イ) 環境騒音の実態把握 【環境保全課】

【平成25年度実績・平成26年度内容】市町が一般地域や道路に面する地域の環境騒音の実態を把握し、県は市町に対し技術的な支援を実施。《類型指定状況、環境基準達成状況は、「広島県環境データ集」参照》

ウ その他の発生源対策等

(ア) 航空機騒音の常時・短期測定 [環境保全課, 空港振興課]

広島空港周辺において、航空機騒音に係る環境基準の類型を指定しています。環境基準の達成状況等を把握するため、常時及び短期騒音測定を実施します。《類型指定状況, 測定結果は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績】常時 5 地点, 短期 22 地点で騒音測定を実施。

【平成 26 年度内容】常時 5 地点, 短期 20 地点で実施予定。

(イ) 新幹線騒音対策 [環境保全課]

新幹線鉄道騒音に係る環境基準の類型を指定しています。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】環境基準の達成状況等を把握するため、沿線において市町が測定を実施し、県は市町に対し技術的・専門的な助言を行い、市町の円滑な事務執行を支援。《類型指定状況, 測定結果は、「広島県環境データ集」参照》

エ 規制の強化 [環境保全課]

「悪臭防止法」により、指定地域内における全工場・事業場に対し、特定の悪臭物質濃度又は臭気指数による規制を実施します。また、「生活環境保全条例」により、県内全域における特定の事業場に対し、規制を行います。地域の指定は、住民の生活環境を保全するため、悪臭を防止する必要があると認める住居が集合している地域等について行います。《規制地域及び規制基準は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】市町への臭気指数規制の導入を推進。

オ 立入・改善指導 [環境保全課]

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】「悪臭防止法」及び「生活環境保全条例」による規制事務を行う市町において、工場・事業場に対して立入検査及び悪臭の測定を実施。平成 25 年度は立入調査等による改善勧告等の実績なし。《届出状況及び立入調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

4 県・市町・企業による環境保全対策

【現状と課題】

(1) 公害防止計画の策定状況

環境基本法第 17 条に基づく公害防止計画について、備後地域及び広島地域において策定しています。公害の発生源に対する各種規制, 下水道, 廃棄物処理施設, バイパス, 公園の整備など, 総合的な公害防止対策を推進しています。

図表 3-1-20 公害防止計画策定状況

地域名	地域の範囲	策定年月日	計画期間 (年度)
備後地域	福山市の区域並びに岡山県笠岡市の区域	H24. 3. 16	H23~H32
広島地域	広島市の区域	H24. 3. 16	H23~H32

資料：県環境政策課

悪臭防止法に基づく悪臭防止の確保

(2) 環境保全協定の締結状況

環境保全関係法令による規制等を補完し、地域の実情に即した生活環境保全対策を実行する上で有効な手段として、県や市町と企業、または住民代表と企業が環境保全協定の締結を行っています。このうち、県は県内主要企業 14 社と環境保全協定等を締結しています。

(3) 公害苦情件数の状況

県及び市町における公害苦情事案の取扱件数は、横ばい傾向にあります。全国的な状況等を踏まえ、今後、必要に応じて対策等を検討していく必要があります。

図表 3-1-21 公害苦情事案の取扱件数

年度	区分 取扱件数 (A+B)	取扱件数内訳					発当 生年 度 数 (A)	繰越 件数 (B)	前 年 度 増 加 件 数	対 前 年 度 比
		大 気 汚 染	水 質 汚 濁	騒 音 振 動	悪 臭	そ の 他				
H19	1,461	402	261	302	188	308	1,408	53	△200	0.88
H20	1,594	359	288	297	244	406	1,513	81	133	1.09
H21	1,482	327	329	276	216	334	1,439	43	△112	0.93
H22	1,524	352	335	298	232	307	1,369	155	42	1.03
H23	1,450	389	291	309	172	289	1,402	48	△74	0.95
H24	1,650	441	290	343	180	396	1,606	44	200	1.14
H25	1,428	375	242	288	145	378	1,392	36	△222	0.87
25年度構成比(%)	100.0	26.3	16.9	20.2	10.1	26.5	-	-	-	-

(注) 取扱件数内訳の欄中「その他」とは、土壌汚染、地盤沈下及び廃棄物に関するもの等をいう。

資料：県環境保全課

【取組状況】

ア 公害防止計画の策定及び推進 [環境政策課]

公害防止計画の推進を図るため、計画に基づく公害防止対策を推進する。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 広島地域及び備後地域の公害防止計画を推進。

イ 環境保全協定の締結及び監視 [環境保全課]

県は県内主要企業 14 社と環境保全協定等を締結しており、その遵守状況の確認等を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 協定内容の確認調査、設備の新増設・変更時の事前指導、排出状況の常時監視、緊急時の対応要請などを行い、協定工場における協定の遵守状況の確認等を実施。

ウ 公害苦情相談 [環境保全課]

県及び市町に、公害紛争処理法に基づく公害苦情処理事務担当職員を 220 人（うち公害苦情相談員 121 人）配置し、公害苦情事案について、連携して調査・指導を行い、迅速かつ適正な解決を図ります。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 市町と連携を図りながら、県内の公害苦情事案処理を行い、公害苦情事案の迅速かつ適切な処理を促進。《詳細は、「広島県環境データ集」参照》

エ 広島県公害審査会の設置 [環境政策課]

公害に係る紛争について、広島県公害審査会において、あつせん、調停及び仲裁を行います。

【平成 25 年度実績】新規事件受付件数 1 件（調停）、継続事件件数 1 件（調停）、

終結件数 2 件（調停打ち切り及び調停成立各 1 件）

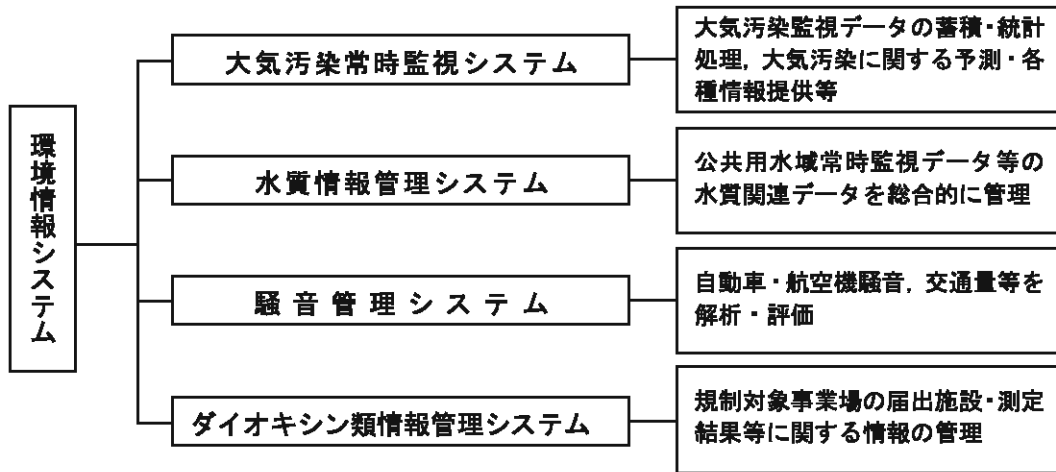
【平成 26 年度内容】継続事件件数 0 件

5 環境汚染事案への対応

【現状と課題】

環境の状態を把握し、汚染が認められた場合には速やかに対策を講じるため、常時監視測定局等における監視・測定を着実に実施するとともに、未規制化学物質など新たに発生する問題にも対応できるよう、監視体制を充実していく必要があります。

図表 3-1-22 環境情報システムの概要



【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値（H21）	現状値（H25）	目標値	目標年度
水質事故発生件数	件	182	180	現状より減少させる	設定なし

【取組状況】

ア 水質汚染事故の対応 [環境保全課]

水質汚染事故が発生した場合、人の健康又は生活環境への被害等を防止するため、「広島県危機対策運営要領（水質汚染事故）」に基づき、河川管理者、市町、消防等と連携して速やかに対応します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】水質汚染事故に対し、河川管理者、市町、消防等との連携により、現地調査、水質検査、原因物質の回収作業等により被害の拡大防止を図るとともに、原因者に対して、再発防止を指導。平成 25 年度は、県に通報のあった水質汚染事故発生件数は、小規模なものを含めて 180 件。このうち、公共用水域へ影響のあったものは、112 件。

また、県広報番組及び県環境情報サイト「エコひろしま」等により事故防止の注意喚起を行うとと

もに、県地方機関及び市町の担当者等を対象に迅速・円滑な初動対応や資質向上を目的とした研修・訓練を実施。

イ 環境情報システムの運用 【環境保全課】

大気汚染等に関する監視システムの運用を通じ、大気汚染や水質汚濁の未然防止を図るとともに、大気・水質等に関する情報管理システムにより県内の環境の状況を把握します。また、電子県庁の推進にあわせて情報加工・提供機能を強化し、光化学オキシダント注意報等発令状況などの最新情報を県民、市町に迅速に提供します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】監視システム及び情報管理システムにより、環境データの収集、処理及び加工等を行い、県内の環境の状況を把握。また、県ホームページの充実により、環境情報を県民等に分かりやすく提供するとともに、大気測定データの速報値や光化学オキシダント注意報等発令状況を迅速に情報提供。

※ 関連事業：モニタリング調査の普及（P81）

第2節 化学物質による健康リスクの低減・土壌環境の保全

1 化学物質の潜在リスクの把握及び排出抑制の推進

【現状と課題】

現代の社会経済活動において製造・使用されている様々な化学物質は、生活を豊かにし、生活の質の維持向上に欠かせない一方で、長期間曝露することにより、人の健康や生態系に影響を及ぼすおそれのあるものがあり、悪影響が生じないよう適正な管理を進め、環境への負荷の低減を図る必要があります。

(1) PRTR²⁰制度

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）」に基づき、人の健康等に有害なおそれのある化学物質（462物質）について、環境への排出量等を事業者自ら把握し、国に届け出るとともに、国は届出データ及び推計データ（自動車、家庭等からの排出量）を、集計・公表しています。

国が公表した平成24年度の排出量等の状況によると、広島県における届出事業所数は全国15位（2.5%）、届出排出量・移動量は、全国11位（3.6%）です。届出外排出量（推計）を含めた環境への排出量は、全国10位（3.7%）です。また、広島県における届出排出量の多い化学物質は、キシレン（主な用途：溶剤）、トルエン（主な用途：溶剤）、マンガン及びその化合物の順で、排出量全体の54.5%を占めています。

なお、平成20年11月の化管法施行令の改正により、対象化学物質及び対象業種が変更になり、平成22年度把握、23年度届出から実施されています。

図表 3-2-1 化学物質の排出状況等（平成24年度）

区 分		広島県		全国		
届出事業所数		917		36,504		
排出先・移動先又は排出源の区分		量（t/年）	割合（%）	量（t/年）	割合（%）	
届出排出・移動量	排出量	大気	6,348	45.7	147,000	38.6
		公共用水域	320	2.3	7,720	2.0
		土壌	0	0.0	2	0.0
		埋立処分	2,634	18.9	7,517	2.0
		計	9,302	(66.9)	162,239	(42.5)
	移動量	下水道	4	0.0	1,368	0.4
		廃棄物	4,594	33.0	217,761	57.1
計		4,598	(33.1)	219,128	(57.5)	
届出排出・移動量計		13,900	100.0	381,368	100.0	
届出外排出量	対象業種（取扱量1t/年未満）	1,088	19.3	44,215	18.2	
	非対象業種	1,623	28.8	83,406	34.2	
	家庭	1,340	23.8	51,809	21.3	
	移動体（自動車等）	1,583	28.1	64,149	26.3	
	小計	5,634	100.0	243,578	100.0	
排出量合計		14,936		405,817		

（注1）量（t/年）の数值は、小数点第1位を四捨五入しています。

（注2）端数処理の関係で、計が合わない場合があります。

資料：県環境保全課

²⁰ PRTR：市民等による環境情報の把握を目的に、行政が事業者からの報告に基づいて化学物質の排出量や移動量のデータを収集し、公表する制度のことで、Pollutant Release and Transfer Register の略

広島県環境保全課

(2) ダイオキシン類²¹の環境基準の達成状況

ダイオキシン類による環境汚染の状況を把握するため、大気、水質、底質及び土壌の汚染状況調査を行っており、いずれにおいても環境基準の適合を確認しています。ダイオキシン類は人の健康に重大な影響を与えるおそれがある物質であることから、環境汚染の未然防止を図るため、今後も、継続して調査を実施する必要があります。

(3) オゾン層²²保護の推進

フロン²³、ハロン、四塩化炭素などが大気中に排出されて成層圏に達すると、オゾン層を破壊するといわれています。オゾン層が破壊され、地上に有害な紫外線が降り注ぐようになると、皮膚ガンや白内障などの健康被害や植物などの生育障害を生じ、地球の生態系に大きな影響を与えることになります。

このため、「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）」、「家電リサイクル法」及び「自動車リサイクル法」の各法律に基づき、フロン類の回収・破壊の徹底を図る必要があります。

(4) アスベスト²⁴対策

アスベストを吸引すると15～50年の潜伏期間を経て肺がん等の疾患を招くおそれがあるため、県は、アスベスト対策推進本部を設置し、相談窓口の整備をはじめ、健康対策、環境対策、廃棄物対策、建築物対策など総合的な対策の推進に取り組んでいます。

アスベストは、ビルの天井や外壁等の建材に多く利用されているため、建築物等の解体や廃棄物処理の際に飛散防止対策を徹底する必要があります。今後、アスベストが使用された建築物等の解体の増加が見込まれるため、アスベスト廃棄物を適正に処理する施設の整備が必要となります。

また、発生源周辺等で行った環境モニタリングの結果、大気中のアスベスト濃度は低いレベルであることが確認されましたが、環境の状況を監視するため、継続してモニタリングを実施する必要があります。

【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H25)	目標値	目標 年度
ダイオキシン類環境基準達成率：大気	%	100	100	100	H27
ダイオキシン類環境基準達成率：公共用水域		100	100	100	
ダイオキシン類環境基準達成率：土壌		100	100	100	
化管法に基づく指定化学物質の環境への届出排出量：大気	t/年	7,092 (H20)	6,348 (H24)	排出量の削減を図る	設定なし
化管法に基づく指定化学物質の環境への届出排出量：公共用水域		228 (H20)	320 (H24)		
化管法に基づく指定化学物質の環境への届出排出量：埋立処分		2,998 (H20)	2,634 (H24)		

21 ダイオキシン類：一般的には、有機塩素化合物のポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン及びポリ塩化ジベンゾフランをまとめた略称。ダイオキシン類対策特別措置法では、これに加えて、同様の毒性を示すコプラナーポリ塩化ビフェニルをダイオキシン類と定義している。塩素原子の数と位置により多数の異性体があり、このうち2, 3, 7, 8-テトラクロロジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性が最も強く、生殖機能への影響、発ガン性や奇形を引き起こすおそれがあることなどが指摘されている。主な発生源として、ごみの焼却等により非意図的に副生成物として生成。

22 オゾン層：オゾン層は地上10～50kmの大気圏にあり、約20km付近が最大濃度になっている。オゾンは酸素原子3個が結合してできた気体。成層圏内に上昇した酸素分子が上空の紫外線のエネルギーを受けて2個の酸素原子に分かれ単独になった酸素原子と別の酸素分子とが結合しオゾンとなる。

23 フロン：炭化水素に塩素、フッ素が結合した化合物（フルオロカーボン）をいう。このうち、フッ素、炭素及び塩素だけで構成されているものをCFC（クロロフルオロカーボン）といい、特にオゾン層を破壊する力の強いCFC-11などの5つを特定フロンという。CFCは1995年末の生産全廃がモントリオール議定書によって取り決められている。CFCがオゾン層を破壊するため、その代替物として開発されたフロン系の物質を代替フロンといい、大きく分けてHCFC（ハイドロクロロフルオロカーボン、2020年生産全廃）とHFC（ハイドロフルオロカーボン、塩素を含まないためオゾン層を破壊しない物質だが、温室効果ガスの一つ）の2種類がある。

24 アスベスト：石棉ともいわれ、天然に存在する繊維状の鉱物のこと。繊維が肺に突き刺さったりすると肺がんや中皮腫の原因になることが明らかになり、WHO（世界保健機関）ではアスベストを発ガン物質と断定。日本でも、大気汚染防止法（1968）により、1989年に「特定粉じん」に指定され、使用制限または禁止されるようになった。

【取組状況】

(1) 化学物質の排出抑制の推進

ア リスクコミュニケーション²⁵等の推進

(ア) PRTRデータの集計結果の公表 [環境保全課]

化管法に基づき、事業者から届け出られた排出の状況等について、国の集計データをもとに県内の状況を地域別等に集計し、ホームページ等により公表するとともに、環境リスク²⁶に関する情報を提供します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】県内における化学物質の排出・移動の状況について集計し、PRTR 対象物質についての情報をホームページ等により、わかりやすく公表。

(イ) リスクコミュニケーション等の推進 [環境保全課]

事業者、住民及び行政によるリスクコミュニケーションを推進するための取組を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】県ホームページを活用し、地域に密着した市町等と連携してリスクコミュニケーションを実施する等、県民が化学物質の理解を深める取組を促進。

イ ダイオキシン類排出抑制対策事業（ダイオキシン類等対策事業） [環境保全課]

ダイオキシン類の環境中への排出を抑制するため、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、工場・事業場に対し、排出濃度の自主測定の実施等の指導や行政検査等を実施し、法の基準の遵守徹底を図ります。《自主測定の実施状況等は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】ダイオキシン類対策特別措置法に基づく立入検査及び行政検査を実施し、排出基準の遵守や自主測定結果の報告等について指導。《立入検査状況は、「広島県環境データ集」参照》

ウ ダイオキシン類環境調査 [環境保全課]

ダイオキシン類についての環境汚染状況調査を実施します。《調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】大気、水質等の調査を年 1～4 回実施。平成 25 年度は、大気 25、水質 34、底質 23、土壌 16 地点を調査したところ、全地点で環境基準に適合。

エ 環境ホルモン環境汚染状況調査 [環境保全課]

人の健康や生態系に影響を及ぼすおそれがある内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）について、その汚染状況を把握するため、環境汚染状況調査を実施します。《調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】内分泌かく乱作用があると推察された物質による環境汚染状況調査を実施。平成 25 年度は、ノニルフェノール、4-*t*-オクチルフェノール及びビスフェノール A について、河川 8 地点及び海域 2 地点の水質調査等の結果、いずれも予測無影響濃度を下回った。

25 リスクコミュニケーション：化学物質や環境汚染などにより人類や生態系が受ける影響（リスク）について、企業や地域住民、消費者、行政などが意見交換・対話を通じて相互理解を深め、適切な対策につなげていく手法。

26 環境リスク：人の活動によって環境に加えられる負荷が環境中の経路を通じ、環境の保全上の支障を生じさせるおそれ（人の健康や生態系に影響を及ぼす可能性）のこと。

オ 化学物質環境汚染実態調査 [環境保全課]

環境省の委託を受け、一般環境中の化学物質による汚染状況を把握するための調査を実施します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】広島湾及び呉港において水質及び底質調査を実施。平成 25 年度は、経年的な変化を把握する 6 物質群のモニタリング調査を実施。

カ フロン回収破壊法に基づくフロン類の回収 [環境保全課]

「フロン回収破壊法」に基づき、業務用冷凍空調機器からのフロン類の回収を業として行う者の登録及び立入検査等を実施します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】回収業者の登録を行うとともに、適正にフロン類の回収・引渡しが行われるよう立入検査等を実施。行程管理制度の導入等について適正な執行を図る。平成 25 年度は第一種フロン類回収業者 88 件を新規に登録し、年度末での登録業者数 503。第一種フロン類回収業者等の立入検査を 35 件実施。

キ 生物・食品の汚染対策 [食品生活衛生課]

(ア) 魚介類等の汚染状況調査

PCB、水銀、トリブチルスズ化合物 (TBT) 及びトリフェニルスズ化合物 (TPT) による食品の汚染状況を調査します。《調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】尾道総合食品地方卸売市場等に入荷する魚介類や市販鶏肉等について調査。平成 25 年度は全て暫定的規制値以下。

(イ) かきの重金属検査

生かきに含まれる重金属を調査し、広島かきの衛生対策を推進します。《調査結果は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】11 地点で調査。平成 25 年度は全て通常の数値の範囲内。

(2) 化学物質排出把握管理促進法に基づく化学物質の自主管理の徹底

ア 化学物質の排出削減・自主管理の徹底

(ア) 排出量等の届出指導 [環境保全課]

第一種指定化学物質の環境への排出量及び事業場外への移動量を把握し、届け出ることが義務付けられている事業者に対して、排出量等の把握及び届出に係る指導を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】届出対象事業者への適切な届出指導を実施。

(イ) 自主管理の促進指導等 [環境保全課]

事業者に対し、自主的な化学物質の管理の改善を促進するため、技術的な支援等を実施します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】「生活環境保全条例」に基づき、対象事業者に対して化学物質自主管理計画書の作成・公表を指導し、化学物質の自主管理を促進。

(3) アスベスト廃棄物の適正処理の推進

ア 県民への的確な情報提供 [環境保全課, 産業廃棄物対策課, 健康対策課, 建築課]

県民の不安解消を図るため、健康、環境汚染、廃棄物処理、建築物に関するアスベスト相談窓口を設置し、各種相談に応じるとともに、県ホームページ等により、アスベスト関連情報を提供します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】相談窓口の設置，県民向け及び事業者向けのパンフレットの作成，県ホームページによるアスベスト関連情報の提供。

イ 建築物解体等の規制 [環境保全課]

「大気汚染防止法」に基づき，建築物及び工作物の解体等の作業現場への立入検査を実施し，作業基準の遵守を指導するとともに，アスベストの飛散防止を指導します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】建築物及び工作物の解体等の作業現場に立入し，アスベスト飛散状況調査の実施。平成 25 年度立入検査は 56 件（うち測定調査 13 件）。平成 26 年度は改正大気汚染防止法を事業者へ周知。

ウ 環境モニタリングの実施 [環境保全課]

一般環境や発生源周辺の大気中のアスベスト濃度を測定します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】環境モニタリングを実施。平成 25 年度は，一般環境 12 地点において実施。すべて敷地境界基準を下回った。

エ 廃棄物処理の規制 [産業廃棄物対策課]

「廃棄物処理法」に基づき，処理業者等への立入検査や，廃棄物処理時のアスベスト飛散状況を調査し，アスベスト廃棄物の適正処理を図ります。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】産業廃棄物処理業者等への立入検査やアスベスト飛散状況を調査し，アスベスト廃棄物の適正処理を指導。

オ 石綿健康被害救済基金拠出金 [環境政策課]

石綿による健康被害者の迅速かつ安定した救済を図るため，国，事業者，他の都道府県と協調して救済給付に充てるための資金を拠出します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】（独）環境再生保全機構に設置されている「石綿健康被害救済基金」に対し，救済給付の資金を拠出。

2 土壌汚染対策の円滑な推進

【現状と課題】

工場跡地等の土壌汚染については，平成 24 年度の全国の調査事例によると，1,905 件中 906 件で土壌汚染が判明するなど，高い水準で推移しており，県内においても，土壌汚染が判明する事例が発生しています。土壌は，いったん汚染されると，その影響が長期にわたり，地下水への影響も考えられることから，適切な未然防止対策を講じるとともに，必要な調査を実施し，汚染が判明した場合は適切な措置を講じる必要があります。

このような状況に対応するため，平成 21 年 4 月に「土壌汚染対策法」の一部が改正（平成 22 年 4 月 1 日施行）され，土壌汚染の状況把握のための制度の拡充や，規制対象区域の分類等による必要な対策の明確化，汚染土壌の適正処理の確保のための規制の新設などの措置が講じられています。

また，農用地における土壌汚染は，農作物に対しても影響を与えることから，農用地におけるカドミウム，亜鉛，銅などによる土壌汚染が生じないように，肥料や農薬の適切な使用を指導することが必要です。

【取組状況】

(1) 土壌汚染の未然防止

ア 土壌汚染状況調査等の実施指導 【環境保全課】

土地所有者等に対し、法に基づく土壌汚染状況調査の実施の徹底を指導するとともに、汚染が判明した場合には、要措置区域等へ指定し、汚染の除去等の措置の実施について指導を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】法に基づき、土地所有者等に対する指導を行うとともに、区域の指定等、必要な措置を実施。(平成 25 年度末現在の指定状況：要措置区域 1 件、形質変更時要届出区域 23 件)

図表 3-2-2 土壌汚染対策法に基づく届出等の件数 (平成 25 年度)

項 目	件 数
法第 3 条第 1 項に基づく土壌汚染状況調査結果の報告	8
法第 3 条第 1 項ただし書に基づく確認	37
法第 4 条第 1 項に基づく土地の形質変更の届出	161
法第 4 条第 2 項に基づく調査命令	1
法第 5 条第 1 項に基づく調査命令	0
要措置区域等の指定	13
要措置区域等の解除 (一部解除を含む, 延べ件数)	8
法第 14 条に基づく指定の申請	9
法第 22 条に基づく汚染土壌処理業の許可申請	0

資料：県環境保全課，広島市，呉市，福山市

イ 土地変更時の土地履歴調査等の実施指導 【環境保全課】

土壌汚染の早期発見と適切な処理を推進し、土壌汚染問題の発生を未然に防止するため、一定規模の土地の変更を行う者に対し、土地履歴調査及び土壌汚染確認調査等の実施について、指導を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】条例に基づき、土地変更時における調査について指導等を実施。

図表 3-2-3 広島県生活環境の保全等に関する条例 (土壌環境の保全) に基づく報告等の件数 (平成 25 年度)

項 目	件 数
土地履歴調査結果の報告	133
土壌汚染確認調査結果の届出	0
汚染拡散防止計画書の提出	0

資料：県環境保全課，広島市，呉市，福山市

(2) 農用地の汚染防止

ア 農薬適正使用推進対策事業 【農業技術課】

農産物の安全性向上や農薬による危害を防止するため、農薬販売者及び農薬使用者等に対する講習会の開催や農薬取締法に基づく立入検査権限を持つ市町とともに検査等を実施します。また、農薬使用者等に対し、農薬に関する正しい知識の普及を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】農薬取締法の内容について講習会などで周知を図り、農薬取締法に基づく立入検査権限を持つ市町とともに検査等を実施し、適正な農薬使用・保管管理の徹底を図る。平成 25 年度実績は危害防止講習会(県内 5 会場, 572 人), 立入検査(138 箇所, うち指導件数 21)を実施。(注) 立入検査件数は、権限委譲市町分を含む。

イ 農業生産資材総合対策事業 [農業産地推進課]

肥料生産・販売の取締指導を行うとともに、土壌機能促進に係る地力増進制度の普及啓発による地力の維持・増進に取り組みます。

【平成25年度実績・平成26年度内容】「肥料取締法」に係る取締指導等を実施。平成25年度は肥料登録申請・届出の受付(77件)。(注)受付件数は、平成25年1月から12月までの実績であり、肥料販売業務に係る権限移譲市町分を含む。

(3) 大久野島土壌汚染対策

ア 環境調査等 [環境保全課]

大久野島の土壌汚染については、国において、撤去処理等の当面の対策(平成11年6月完了)が行われましたが、恒久的対策が着実に講じられるよう、大久野島周辺環境の調査を定期的を実施します。

【平成25年度実績・平成26年度内容】大久野島周辺海域5箇所において、砒素及び鉛に係る水質調査を実施した結果、すべて定量下限値未満。引き続き、水質調査を実施。

第3節 身近な生活環境・優れた景観等の保全

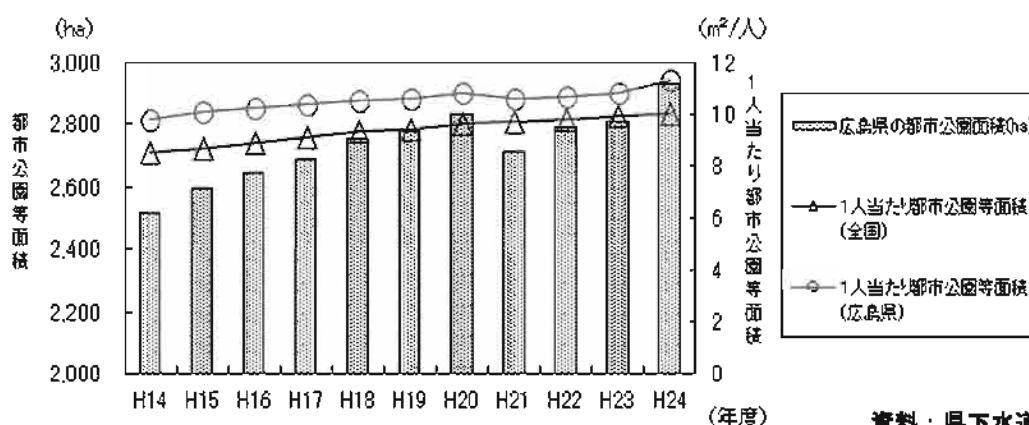
1 身近な生活環境の保全

【現状と課題】

農山村地域等は、里山、水田・畑などの農用地や集落などで構成される多様な環境が存在し、その中で多くの生物が生息していますが、過疎化・高齢化の進行により、里山²⁷・農用地等の有する環境保全機能の維持が困難な地域も発生しています。

一方、都市域及び都市近郊では、地域住民の良好な生活環境の維持に資する自然環境の保全を図るとともに、公園や緑地、街路樹等の整備・保全等により、安らぎのある快適な生活空間を創造していく必要があります。

図表 3-3-1 都市公園等面積及び1人当たり都市公園等面積



資料：県下水道公園課

図表 3-3-2 緑地環境保全地域数及び面積（平成26年4月1日現在）

区分	地域数	総面積 (ha)
緑地環境保全地域	22	818

資料：県自然環境課

【環境の状態等を測る指標】

指標項目 (内容)	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H25)	目標値	目標年度
県自然環境保全地域面積	ha	2,054	2,054	現状を維持	H27
緑地環境保全地域面積		818	818		
自然公園面積		37,853	37,853		
1人当たり都市公園等面積	m²/人	10.8 (H20)	11.3 (H24)	設定なし	
森林ボランティア参加数	人	56,000	65,600	70,000	H27

27 里山：市街地等で従来から林産物の栽培、肥料、炭の生産等に利用されてきた森林。近年身近な自然として評価されているが、所有者による維持管理が困難な状況となっている場合も多い。

28 都市公園：都市公園法2条で定義されたもので、国が設置する国営公園と、地方公共団体が設置する街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園、広域公園等の都市公園がある。

【取組状況】

ア 緑地環境保全地域の指定等 [自然環境課]

「自然環境保全条例」に基づく緑地環境保全地域を指定し、市街地やその周辺地域の緑地等の保全を図ります。《緑地環境保全地域指定状況は、「広島県環境データ集」参照》

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 県内 22 箇所の緑地環境保全地域の保全の推進。

イ 中山間地域等直接支払事業 [農業基盤課]

農用地の持つ水源かん養などの公益的機能の維持を図るため、農業生産条件の不利な中山間地域等を対象として、集落等を単位とする農業生産活動を推進し、耕作放棄の原因となる農地生産条件の不利性を補正する直接支払を実施します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 平成 22 年度から 5 年間の予定で第 3 期対策が開始されており、協定面積のさらなる拡大と、持続的農業生産活動を目指す積極的な協定活動が見込まれる。平成 25 年度は協定面積 21,709ha に対し、2,927,176 千円を交付。

ウ 農業・農村多面的機能支払事業 [農業基盤課]

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための地域活動や、道水路及び農村環境の適切な保全活動を支援することにより、持続的な農業生産活動を通じた農地の公益的機能を維持します。

【平成 25 年度実績（旧事業名：農地・水・環境保全向上対策）】 共同活動 266 組織（9,069ha）、293,713 千円および、向上活動 57 組織（3,141ha）、135,906 千円を交付。

【平成 26 年度内容】 新制度創設にあわせ協定面積を拡大して実施予定。

エ 植樹帯などによる道路緑化 [道路企画課、道路整備課]

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 緑に恵まれた快適な環境が身近な空間に創出されるよう、道路改良の際、植樹帯や法面緑化などを必要に応じて行い、良好な道路環境の整備を推進。

オ 都市公園事業 [下水道公園課]

都市公園の整備や都市における緑化の推進により、都市環境を改善するとともに、自然的環境を創出し、快適で潤いのある生活環境を形成します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 平成 25 年度は龍王山総合公園（東広島市）等、6 箇所で公園整備を実施。

カ 街路事業 [都市計画課]

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】 街路樹の植栽などによる道路緑化、法面における自然植生の回復等により良好な道路環境の整備を推進。

2 優れた景観等の保全と創造

【現状と課題】

本県は中国山地の自然美，瀬戸内の多島美，水とみどり豊かな田園景観，歴史と伝統に彩られた活力ある都市景観などを有しており，こうした優れた景観を県民共有の財産として守り育て，次の世代に引き継いでいくことが求められています。

県では，平成3年に「ふるさと広島の景観の保全と創造に関する条例（県景観条例）」を制定し，景観指定地域や大規模行為届出対象地域の指定など，良好な景観形成に努めてきました。平成16年には「景観法」が制定されたことから，市町が景観行政団体となり，主体的に景観行政を推進するよう取り組んでいます。

また，県内の数々の文化遺産のうち，国・県・市町の文化財に指定・選定・登録された数は約3,000件，周知の埋蔵文化財包蔵地が約18,000件あり，いずれも全国的に件数の多い県になっています。この貴重な文化遺産を，県民共有の財産として保存し次世代に継承するとともに，県民の文化の向上に資するため，整備・活用を進めることが求められています。

図表 3-3-3 「県景観条例」に基づく景観指定地域（7市町）

名称	区域	種類	指定年月日
宮島・大野 景観指定地域	廿日市市（旧宮島町，旧大野町の区域）	旧宮島町：景観モデル地域 旧大野町：景観形成地域	H3. 12. 25
新広島空港周辺 景観指定地域	三原市（旧本郷町，旧大和町の区域）及び 東広島市（旧河内町の区域）	全域：景観形成地域	H4. 4. 1
西中国山地国定公園 周辺景観指定地域	廿日市市（旧吉和村の区域），安芸太田町 （旧筒賀村，旧戸河内町の区域）及び北広島町 （旧芸北町の区域）	全域：景観形成地域	H5. 2. 10
西瀬戸自動車道 景観指定地域	尾道市（旧御調町を除く区域） ※H22. 4. 1市景観計画区域となったことに 伴い，県景観条例の届出事務を適用除外	全域：景観形成地域	H5. 4. 1
安芸灘架橋 景観指定地域	呉市（旧藩刈町，旧下藩刈町，旧川尻町， 旧豊浜町，旧豊町の区域）	全域：景観形成地域	H6. 4. 1

資料：県環境保全課

図表 3-3-4 「県景観条例」に基づく大規模行為届出対象地域

竹原市，三原市（旧本郷町，旧大和町を除く区域），府中市 （旧上下町を除く区域），庄原市（旧口和町，旧比和町，旧総領町を除く区域），大竹市，東広島市（旧福富町，旧河内町を除く区域），安芸高田市（旧八千代町の区域）， 江田島市，府中町，海田町，熊野町，坂町，大崎上島町，神石高原町（旧豊松村，旧三和町の区域） ※H19. 10. 1（三次市），H20. 3. 1（呉市）にそれぞれの市景観計画区域となったことに伴い，県景観条例の届出事務を適用除外
--

資料：県環境保全課

図表 3-3-5 「景観法」に基づく景観行政団体（ ）は，景観行政団体となった日

広島県（H16. 12. 17），広島市（H16. 12. 17），福山市（H16. 12. 17），三次市（H17. 4. 1），尾道市（H17. 8. 1）， 呉市（H17. 10. 1），廿日市市（H21. 7. 15）
--

資料：県環境保全課

【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 （H21）	現状値 （H25）	目標値	目標 年度 設定 なし
景観計画策定市町数	市町	3	5	増加を図る	

【取組状況】

(1) 景観行政団体への移行及び景観計画策定の促進

ア 市町主体の景観施策の促進 [環境保全課]

地域の特性を活かしたまちの景観整備が進められるよう、まちづくりの主体である、市町による景観行政の一層の促進を図ります。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】市町担当者の事例研修の実施や、広島県景観会議の運営を支援。また、「市町景観計画策定の手引き」を活用し、景観法に基づき、市町が自然的、社会的特性に応じて景観計画を策定するよう働きかけるなど、市町主体の景観施策の促進を図る。

(2) 地域景観の保全や創造、活用等の支援

ア 県景観条例に基づく届出制度の運用 [環境保全課]

「県景観条例」に基づき、景観指定地域や大規模行為届出対象地域を指定して、大規模建築物の建設や造成行為等の届出指導を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】届出制度による指導を行い、良好な景観の保全等に努める。平成 25 年度の大規模行為等の届出実績 262 件。

イ 道路環境整備事業 [都市計画課]

良好な街並み景観の創造と道路空間の有効利用を図るため、街路樹や植栽、カラー舗装並びに無電柱化推進計画に基づく電線類の地中化を行うことにより、優れた景観の形成を図ります。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】平成 25 年度は鷹取奈良津線（福山市）、高小路線（庄原市）において、電線類の地中化を実施。平成 26 年度は左記 2 路線に加えて、廿日市駅通線（廿日市市）を実施予定。

ウ 広島港色彩計画に基づく協議 [港湾漁港整備課]

広島港において、統一感のある良好な景観を創出することで、誰もが行ってみたい、愛着の持てる港空間創りを図るため、広島港色彩計画に基づき、建物の新設や外観の変更等を行う者と協議を行います。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】協議制度の活用により、良好な景観の創出に努める。

(3) 地域における歴史的・文化的環境の保全

ア 指定文化財の管理及び保存・修理 [文化財課]

所有者等が実施する保存修理事業等に要する経費の一部を助成するとともに、国指定文化財の防災設備保守点検、雪降ろし等に要する経費の一部を助成し、指定文化財の適切な保存と管理を推進します。

(ア) 国指定文化財保存事業

国指定文化財の保存修理・防災施設設置事業に対し助成します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】平成 25 年度は重要文化財浄土寺方丈（尾道市）など 10 件の保存修理事業に対し助成。平成 26 年度は 11 件の助成を予定。

(イ) 県指定文化財保存事業

県指定文化財の保存修理事業等に対し助成します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】平成 25 年度は県史跡（呉市）など 3 件の保存修理事業に助成。平成 26 年度は 1 件の助成を予定。

(ウ) 指定文化財管理事業

国指定文化財の防災設備保守点検，雪降ろし等に対し助成します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】平成 25 年度は国宝不動院金堂（広島市）など 33 件の防災設備保守点検事業等に対し助成。平成 26 年度は 33 件の助成を予定。

イ 歴史的文化遺産の継承と活用 【文化芸術課・文化財課】

県内の国・県指定文化財等の保存と活用を図るため，インターネット等を通じて文化財情報の公開や県所有の文化財を公開します。

(ア) 文化財ホームページ【広島県の文化財】の公開活用

国・県指定文化財の所在地や内容，写真等の情報を紹介し，指定文化財の公開活用を推進します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】新指定文化財情報など文化財に係る情報を適宜追加する。

(イ) 縮景園・みよし風土記の丘（浄楽寺・七ツ塚古墳群）の公開活用

広島を代表する名勝縮景園や県北の古墳文化を象徴する史跡浄楽寺・七ツ塚古墳群を公開し，広島県の歴史と文化に関する学習機会を提供します。

【平成 25 年度実績・平成 26 年度内容】縮景園，浄楽寺・七ツ塚古墳群の環境整備や茶会等の行事を通じて，利用促進と学習支援の充実を図る。平成 25 年度の見学者数は，縮景園が約 24.2 万人，浄楽寺・七ツ塚古墳群が約 10 万人。

ウ 埋蔵文化財の保護と活用 【文化財課】

埋蔵文化財の保護と活用を図るため，「広島県遺跡地図」を活用して埋蔵文化財包蔵地を周知するとともに，開発事業との調整により，埋蔵文化財の現状保存あるいは記録による保存を図ります。

(ア) 県内遺跡詳細分布調査事業

開発事業地内等の埋蔵文化財の有無について確認する踏査，試掘調査を実施するとともに，埋蔵文化財保護と開発事業との調整を行います。

【平成 25 年度実績】中国横断自動車道尾道松江線建設事業など 7 の事業に伴う踏査，試掘調査を実施。

【平成 26 年度内容】 9 の事業に伴う踏査，試掘調査を実施および市町への支援を実施予定。

(イ) 遺跡地図の公開・活用

「広島県遺跡地図」を公開・活用し，埋蔵文化財の一層の保護を図ります。